



インベスターズガイド

2023年6月版

日本ライフライン株式会社

東証プライム市場：7575

Unauthorized copying prohibited.
Copyright © 2023 Japan Lifeline Co., Ltd. All rights reserved.

1. 日本ライフラインとは
2. ビジネスモデル
3. 業績ハイライト
4. 中期経営計画
5. 資本政策・株主還元
6. サステナビリティ
7. ファクトシート
8. 補足資料

1. 日本ライフラインとは
2. ビジネスモデル
3. 業績ハイライト
4. 中期経営計画
5. 資本政策・株主還元
6. サステナビリティ
7. ファクトシート
8. 補足資料

最新最適な医療機器を通じて
健康社会の実現に貢献する

連結売上高
(2023/3期)

517億円

営業利益率
(2023/3期)

20.9%

売上高に占める
自社製品比率
(2023/3期)

54.9%

AFアブレーション症例数
伸び率予想*1

CAGR+6%

国内営業拠点数
(2023/3末)

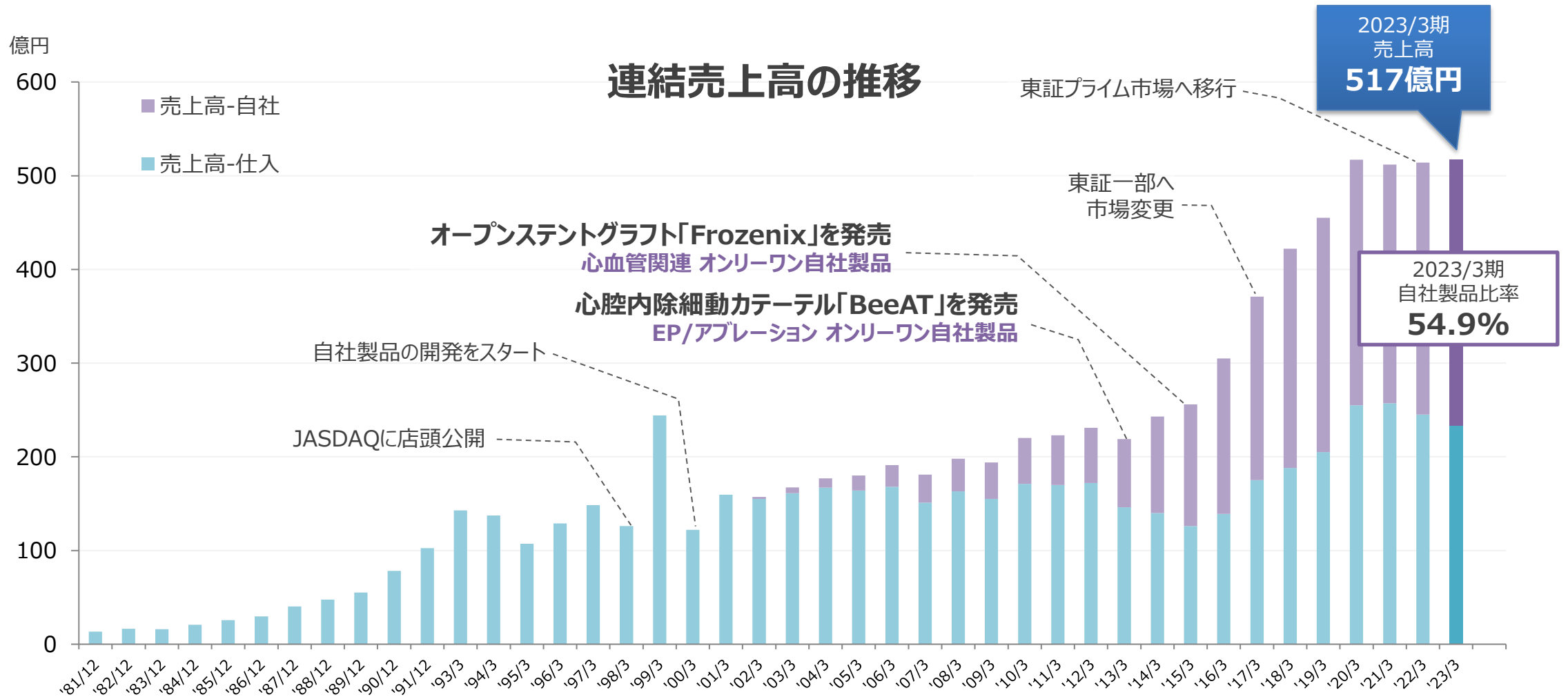
48拠点

連結従業員数
(2023/3末)

1,166名

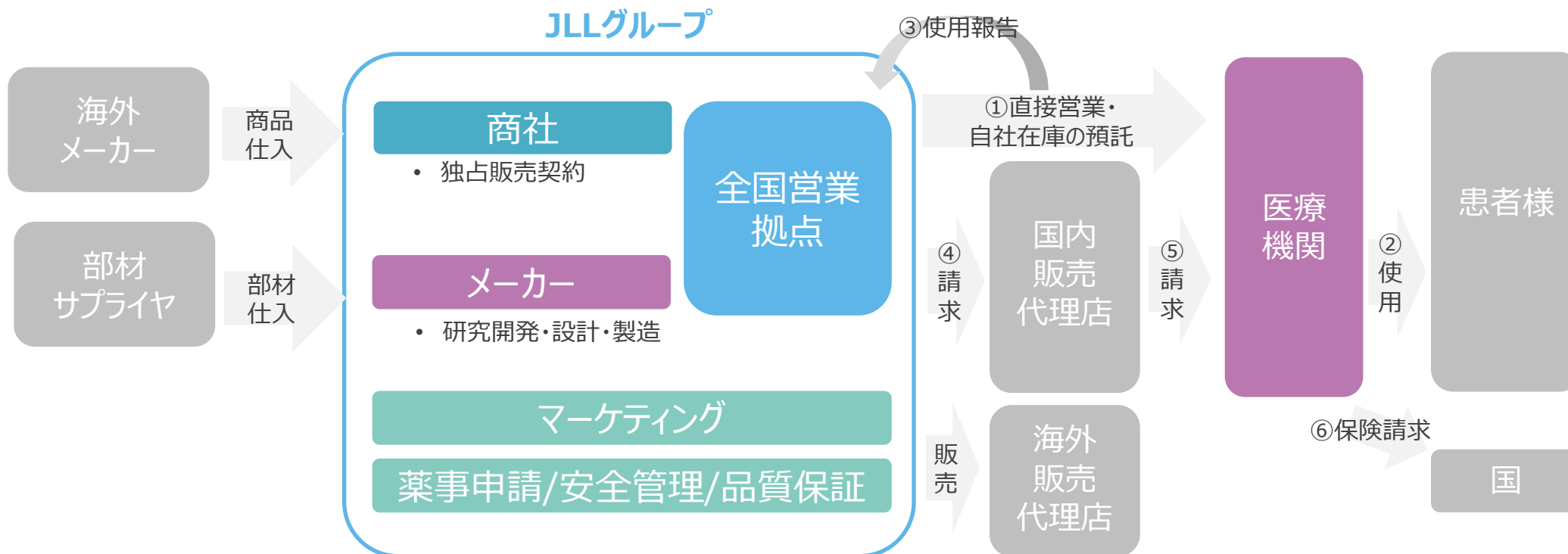
*1 2023年3月期を起点に今後5年程度の伸び率予想（自社推計）

✓ 業界で類を見ないメーカー/商社のビジネスモデルと、オンリーワンの自社製品を軸に成長



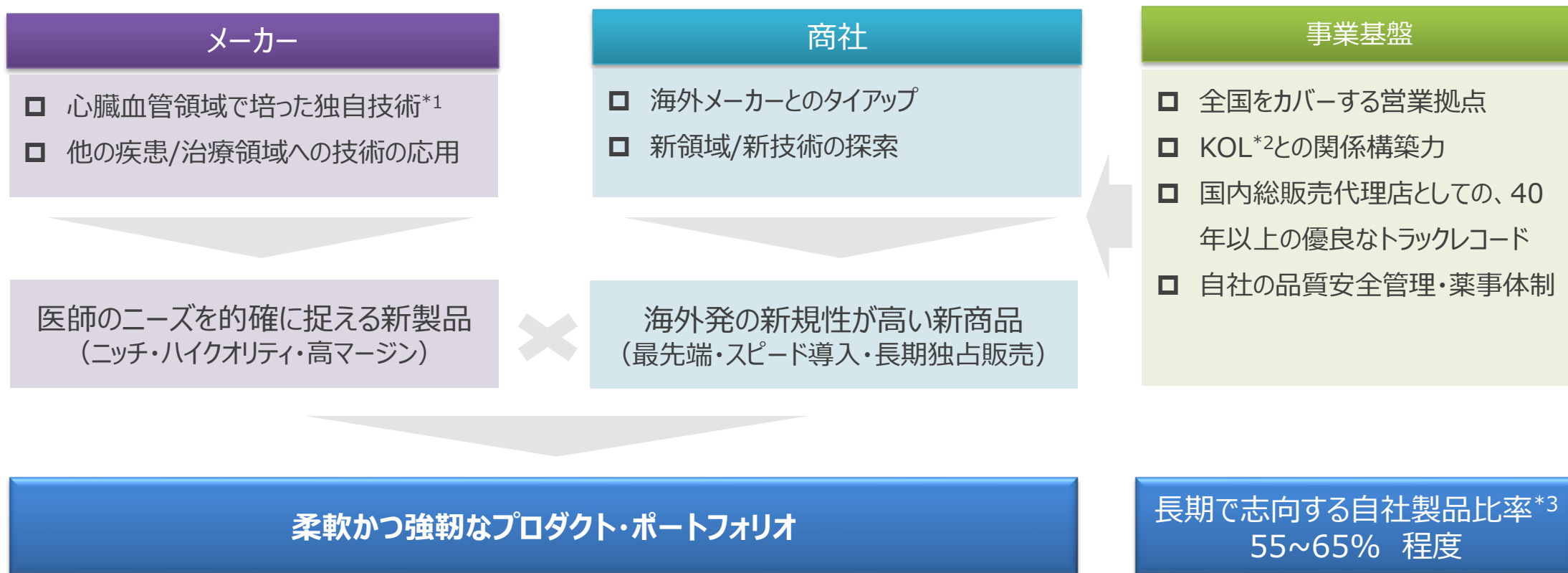
1. 日本ライフラインとは
2. ビジネスモデル
3. 業績ハイライト
4. 中期経営計画
5. 資本政策・株主還元
6. サステナビリティ
7. ファクトシート
8. 補足資料

- ✓ 商社とメーカーのハイブリッド型ビジネスモデル
- ✓ 全国規模の販売力と医療機器を市場流通させるために必要な薬事機能などを自社で保有
- ✓ 当社セールスは、エンドユーザである医療機関(医師)に直接営業
- ✓ 医療機関に滅菌期限(使用期限)のある自社在庫を預託*1、手術での使用で売上を認識



*1 預託販売は当社の主要な販売形態です。医療機関や代理店が買い取りすることもあります。輸出についても、海外代理店が当社の在庫を買い取ります。

- ✓ メーカー/商社ビジネスモデルは、**事業環境の変化への対応力に優れる**
- ✓ プロダクト・ポートフォリオを**柔軟かつ迅速にアップデートし続けることが可能**



変化の激しい医療機器業界において、顧客(医師)に新しい選択肢をタイムリーに提供し続ける

*1 高機能シャフト技術、アブレーション（焼灼）技術、ステント編み込み技術 etc.

*2 Key Opinion Leader

*3 自社製品の拡大を基本方針としつつ、商社の事業機会も積極的に追求する。自社製品比率は、長期(10年以上)で55~65%程度を目指すべき水準と設定

経営理念

最新最適な医療機器を通じて
健康社会の実現に貢献する

経営ビジョン

メーカーと商社の両機能を追究し、国内外
の医療現場に最新最適な選択肢を提供し、
高付加価値を生み出す



- ✓ 国内48か所の営業拠点を持ち、全国の主要な医療施設をカバー
- ✓ 地域密着型の営業で医療現場からアンメットニーズを拾い上げ、次の製品開発に活かす

国内営業所

48 拠点

国内セールス

約**430**人



✓ 当社の事業に関する主なリスクは下記のとおりです。

リスクへの対処・考え方

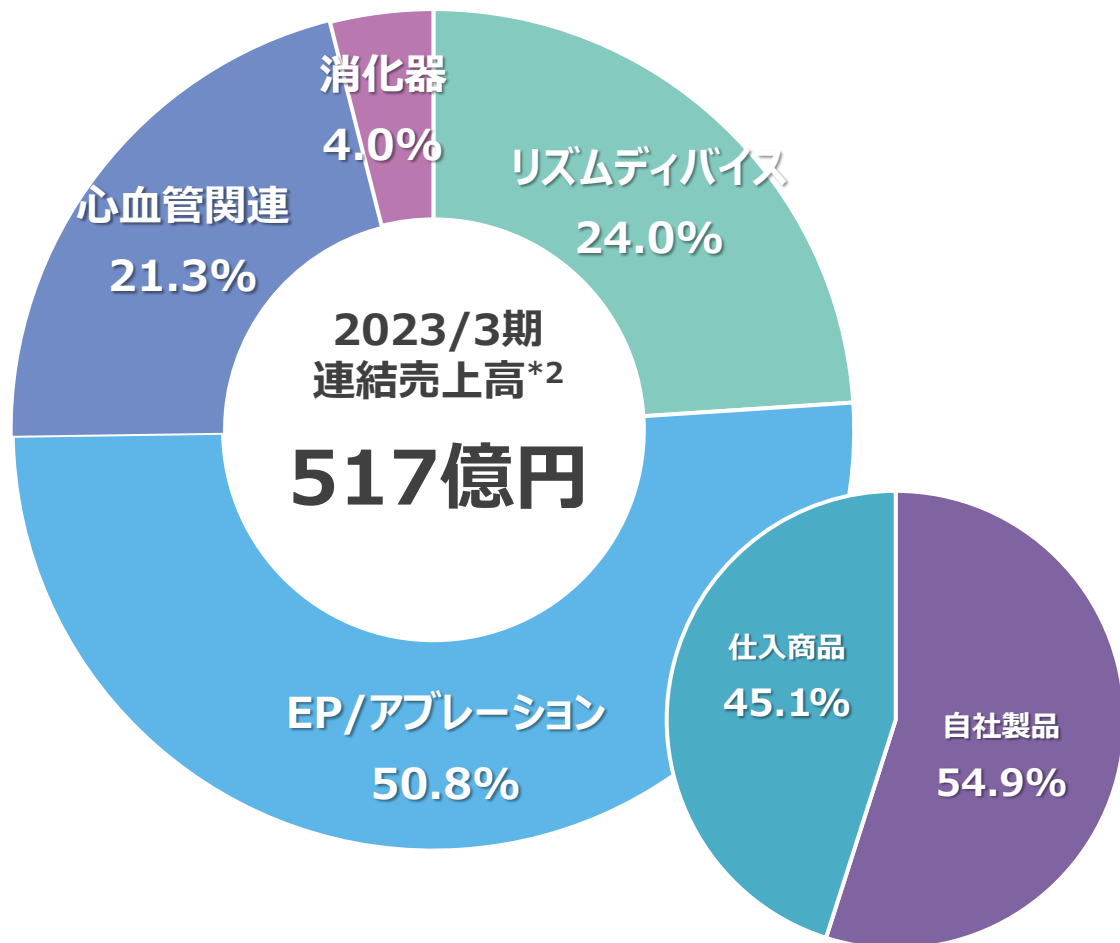
| | | |
|--------------------------|--|--|
| <p>オンリーワン製品における競合の参入</p> | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 収益力の高いオンリーワン製品の業績貢献度は非常に高く、連結売上高の約4割を占める*1 (2023/3期) | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 技術的優位性の確保 (特許・ノウハウなど) ✓ 新規性の高い製品の導入 |
| <p>仕入先の被買収</p> | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 仕入先の海外スタートアップ企業などが買収された場合、独占販売権を喪失する可能性あり | <ul style="list-style-type: none"> ✓ COC条項*2によるリスクヘッジ |
| <p>保険償還価格の下落</p> | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 原則、2年に1回改定があり、価格競争が激しいほど下落幅大 ✓ 2022/4改定時は連結売上高で▲4%程度の影響 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 新規性の高い製品/商品を継続的に導入する |
| <p>AF*3症例数の伸び鈍化</p> | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 主力事業のEP/アブレーションの業績は、AF症例数の増減と強く相関し、全体PLへの影響大 ✓ 新型コロナは短期的な症例数減少要因 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 消化器領域など新領域を強化し、特定の事業への依存度を低減する |

*1 対象品目は、心腔内除細動カテーテル「BeeAT」、オープンスtentグラフト「Frozenix」、S-ICD「EMBLEM™ MRI S-ICD System」の3品目

*2 Change of Control条項。契約期間中にメーカーが買収され経営権に変更が生じた場合、メーカー側は補償金の支払い義務が発生する等の条項があります。

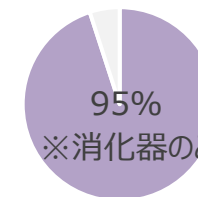
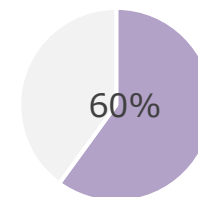
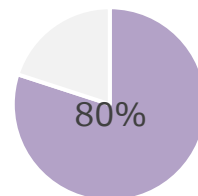
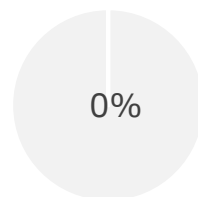
*3 Atrial Fibrillation (心房細動)

- ✓ メインの疾患領域は**心臓血管領域**であり、4つの品目区分に分類される
- ✓ 新領域として、**消化器**と**脳血管**^{*1}にも注力し、疾患領域を拡大へ



| | |
|------------------------------|--|
| リズムデバイス | <ul style="list-style-type: none"> 不整脈を治療する体内植込み型の医療機器 (BSJ社^{*3}との長期独占販売契約) |
| EP/アブレーション | <ul style="list-style-type: none"> 不整脈の検査や治療を行う使い捨てのカテーテルなどの医療機器 |
| 心血管関連 <small>*4*6</small> | <ul style="list-style-type: none"> 大動脈瘤などを治療するための人工血管やステントグラフトなどの医療機器 脳動脈瘤や脳卒中を治療するための医療機器 |
| 消化器 ^{*5*6} | <ul style="list-style-type: none"> 消化器疾患を治療する医療機器 |

自社製品比率



*1 品目区分では、「心血管関連」に該当

*2 2024/3期から品目区分を刷新しております。ここでは2023/3期の内訳を新区分で表示しています

*3 Boston Scientific Japan社 (Boston Scientific Corporation (米)の日本子会社)

*4 2023/3期末 名称変更 旧:「外科関連」⇒ 新:「心血管関連」

*5 2023/3期末 名称変更 旧:「消化器/PI」⇒ 新:「消化器」

*6 心房中隔欠損閉鎖器具は旧区分の「消化器/PI」から新区分の「心血管関連」に移動

✓ **不整脈**(心臓の拍動が遅くなる、または早くなる疾患)を治療する体内植込み型の医療機器

ペースメーカー関連

心臓ペースメーカー

商品名 : Accolade (Boston Scientific社製)



心臓の拍動が遅くなる不整脈(徐脈)に対して、人工的に電気刺激を与えることで拍動を保ちます。

保険償還価格*1

シングルチャンバ 454,000円
デュアルチャンバ 593,000円

CRT-P (両心室心臓ペースメーカー)

商品名 : Visionist X4 (Boston Scientific社製)



重症心不全に対して、心臓の左右両方の心室に電気刺激を与える、心臓の同期不全を整えポンプ機能を改善します。

保険償還価格

1,290,000円

I C D 関連

T-ICD (経静脈植込型除細動器)

商品名 : Resonate (Boston Scientific社製)



心臓の拍動が早まる不整脈(頻脈)のうち、致死性の不整脈である心室細動の発生を検知し、電気ショックを与え、拍動を正常な状態に戻します。

保険償還価格

シングルチャンバ 2,730,000円
デュアルチャンバ 2,820,000円

S-ICD (完全皮下植込型除細動器)

商品名 : Emblem MRI (Boston Scientific社製)



T-ICDは静脈を介し心臓内にリードを留置しますが、S-ICDは全ての機器を皮下に植込み血管内や心臓へ異物留置がありません。

保険償還価格

3,120,000円

*1 保険償還価格は2023年4月1日現在

✓ **不整脈**の検査や治療を行う、使い捨ての電極付カテーテルなどの医療機器

| E P カテーテル関連 | | A B L カテーテル関連 | | その他 |
|--|--|--|---|--|
| <p>EP（電気生理用）カテーテル 製品名：EP Star, Libero, Snake, Esophastar (自社製品)</p>  <p>不整脈の診断や治療方法の適応を判断する検査に用います。カテーテル先端の電極で、心臓内電位を測定したり、不整脈を誘発させて原因を特定します。</p> <p>保険償還価格*1 標準型（電極数3~5） 46,800円 温度センサ付（エソファスター）85,400円</p> | <p>心腔内除細動カテーテル 製品名：BeeAT（自社製品）</p>  <p>アブレーション治療時に発生する心房細動に対し、心腔内で除細動を行うことで、低侵襲に心房細動を停止させます。またEPカテーテルとしての診断機能も合わせて持っています。</p> <p>保険償還価格 214,000円</p> | <p>アブレーションカテーテル 製品名：Ablaze（自社製品）</p>  <p>頻脈の原因となる心臓内の異常な電気刺激の経路を、カテーテル先端部の電極から流す高周波電流で焼き切ることで治療します。</p> <p>保険償還価格 通常型 117,000円</p> | <p>内視鏡レーザーアブレーションカテーテル 商品名：HeartLight X3（Cardio Focus社製）</p>  <p>バルーン内部からレーザーを照射し、頻脈の原因となる部位を焼き切り治療します。カテーテル内部の内視鏡で、正確な留置・焼灼が可能です。</p> <p>保険償還価格 505,000円</p> | <p>ステーラブルガイドングシース 商品名：Guidee Leftee（自社製品）</p>  <p>診断又は治療のためのカテーテルを経皮的に心臓に挿入するために使用されます。先端部は、ハンドルの回転ノブを操作することで、屈曲させることができます。</p> <p>保険償還価格 118,000円</p> |

*1 保険償還価格は2023年4月1日現在

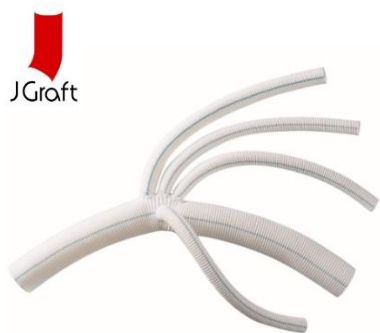
- ✓ 大動脈: **大動脈瘤**などを治療するための人工血管やステントグラフトなどの医療機器
- ✓ 脳血管: **脳動脈瘤**や**脳卒中**を治療するための医療機器

大動脈(人工血管)関連

脳血管関連

人工血管

製品名: J Graft (自社製品)



開胸手術により動脈瘤などで傷んだ血管を切り取り、人工血管に置き換え治療します。

保険償還価格*1

分岐なし (ストレート) 117,000円
1分岐 (T字) 179,000円
2分岐以上 (4分岐) 245,000円

(腹部用)ステントグラフト

商品名: AFX2, Alto (Endologix社製)



外科手術を行うことなく、足の付け根の血管からカテーテルを通じて、治療部位に留置し大動脈瘤を治療します。

保険償還価格

標準型 (AFX) 1,320,000円
ポリマー充填型 (Alto) 1,430,000円

オープンステントグラフト

製品名: Frozenix (自社製品)



大動脈に挿入し拡張することにより血管に固定します。片側の吻合が不要なため、開胸手術を行うものの低侵襲に大動脈瘤の治療を行います。

保険償還価格

1,110,000円

塞栓用コイル

商品名: Avenir (Wallaby Medical社製)



脳動脈瘤内に塞栓用コイルを留置することで血液の流入を遮断し、瘤の破裂(くも膜下出血)を防ぎます。

保険償還価格

82,900円

血栓吸引カテーテル

商品名: Esperance (Wallaby Medical社製)



脳血管に詰まった血栓をカテーテルを通じて吸引し除去することで、急性期の脳梗塞を治療します。

保険償還価格

273,000円

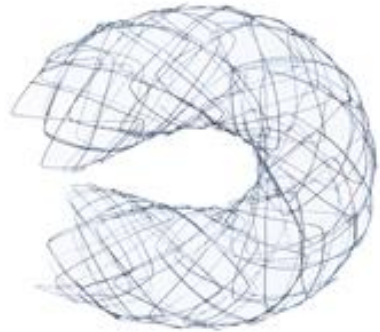
*1 保険償還価格は2023年4月1日現在

✓ 消化器疾患を治療する医療機器

消化器

大腸用ステント

製品名：JENTLLY NEO Colonic Stent（自社製品）



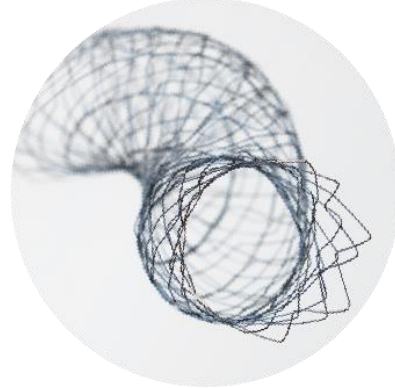
癌により閉塞した大腸を押し広げるために用います。細いガイドワイヤーで閉塞部を通過させた後、これに沿ってステントを展開します。

保険償還価格*1

216,000円

胃・十二指腸用ステント

製品名：JENTLLY NEO Duodenal Stent（自社製品）



癌により閉塞した胃や十二指腸を押し広げるために用います。細いガイドワイヤーで閉塞部を通過させた後、これに沿ってステントを展開します。

保険償還価格*1

216,000円

肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針

製品名：arfa（自社製品）



超音波(エコー)やCTで観察しながら針状の電極を経皮的に肝癌の病変組織へ挿入し、電極周囲にラジオ波による熱を発生させ病変を焼灼し治療します。

保険償還価格

なし。保険区分A2(特定包括)で特定の診療報酬項目において包括的に評価される。

胆管チューブステント

製品名：REGULUS（自社製品）



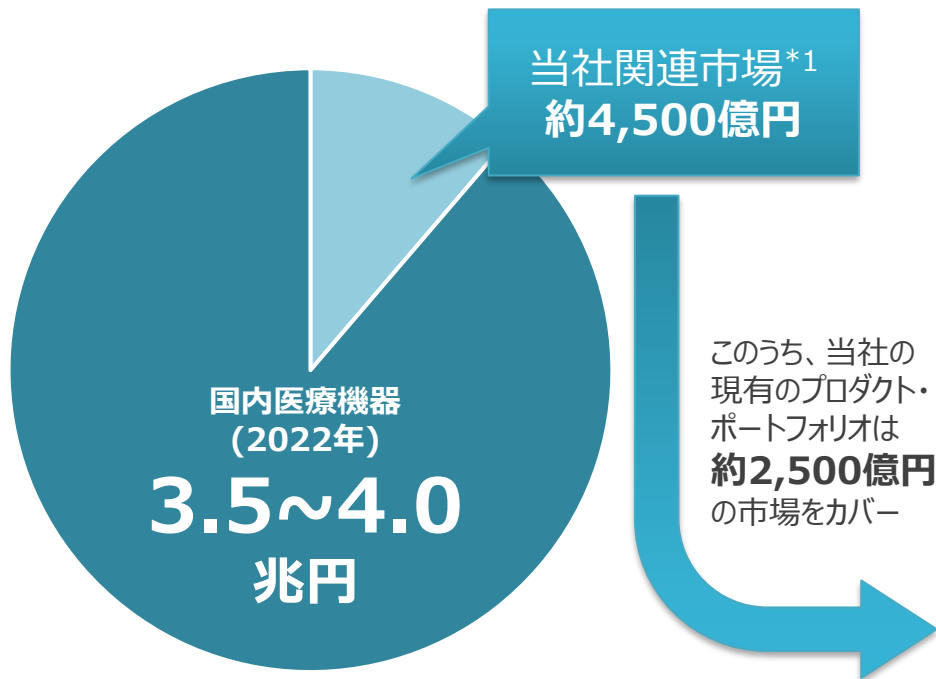
胆管が胆石や腫瘍などの圧迫によって狭くなった箇所にステントを留置し広げることで、胆汁の流れを改善して治療します。

保険償還価格

45,600円

*1 保険償還価格は2023年4月1日現在

- ✓ 国内医療機器の市場は、今後もCAGR 2～3%程度の安定成長を見込む
- ✓ 心臓関連で確固たる地位を築き、成長を期待できる新たな市場の開拓を進める



| 事業区分 | 疾患部位/疾患 | 市場規模 | 市場成長率 (今後数年の予測) | 当社売上高 (23/3期) |
|------------------|------------|----------------|--------------------|-------------------------|
| リズムデバイス | 心臓/不整脈 | 750億円 | +0% | 124億円 |
| EP/アブレーション | 心臓/不整脈 | 750億円 | +4~5% | 262億円 |
| 心血管関連 (大動脈) | 心臓/大動脈瘤 | 380億円 | +0% | 104億円 |
| 心血管関連 (脳血管)*2 | 脳/脳卒中・脳動脈瘤 | 300億円 | +5~6% | 2億円 |
| 消化器*3 | 消化器/がん等 | 340億円*4 | +3~4% | 6億円*5 ※消化器以外 17億円 |
| 合計 | | 2,520億円 | - | 517億円 |

出所：R&D及び当社調べ

とりまく
外部環境

社会保障
改革

技術革新
AI/ロボティクス/
ヘルステック

超高齢社会の
進展

医療現場の
働き方改革

新型コロナ
ウイルス

*1 R&D社の2022年度の市場予測より、心臓・脳・消化器・末梢の各市場の金額を足し合わせて算定

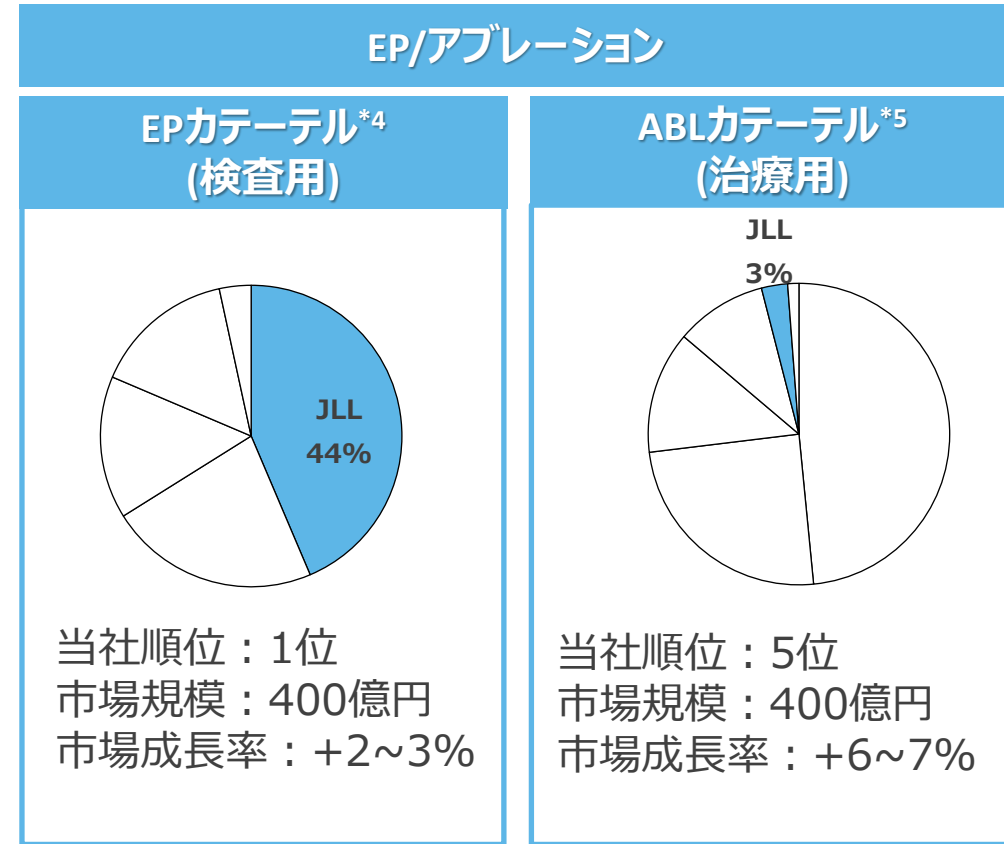
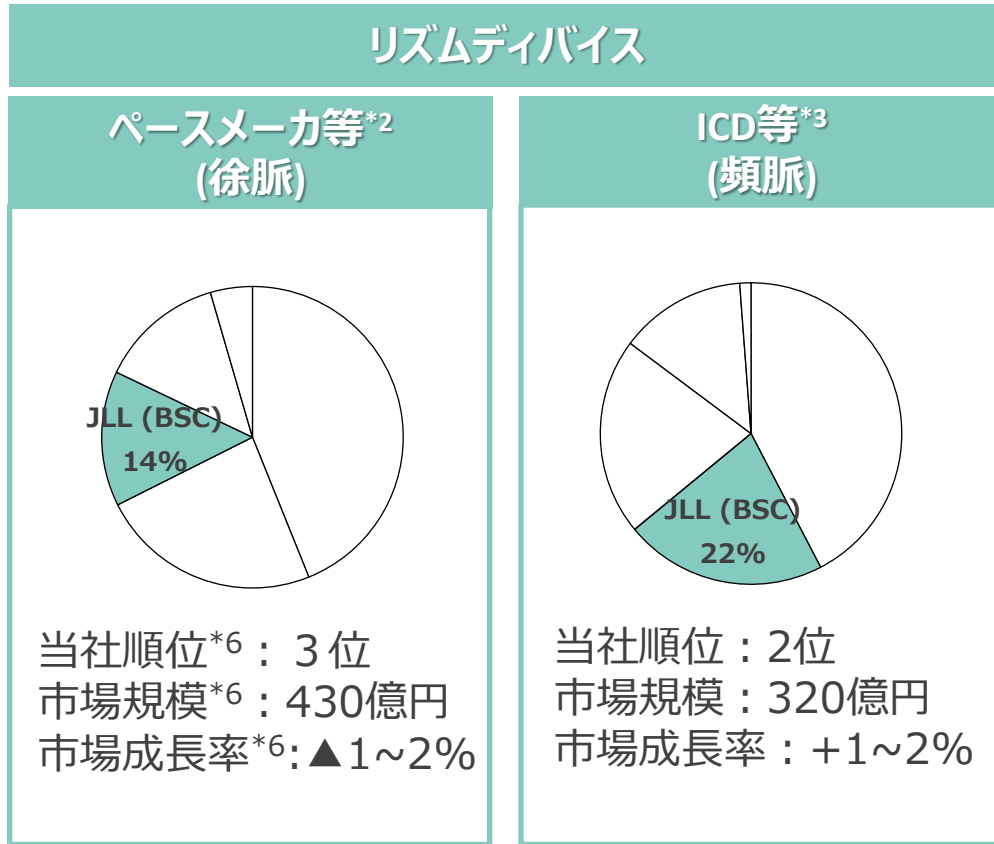
*2 腹部領域でも使用される塞栓用コイルなどを含む

*3 PIは2024/3期に事業終了を見込む

*4 胆膵処置具(240億円)と消化器メタリックス Tent(90億円)と肝臓RFA(10億円)の合計(消化管処置具の230億円やPI関連を含まない)

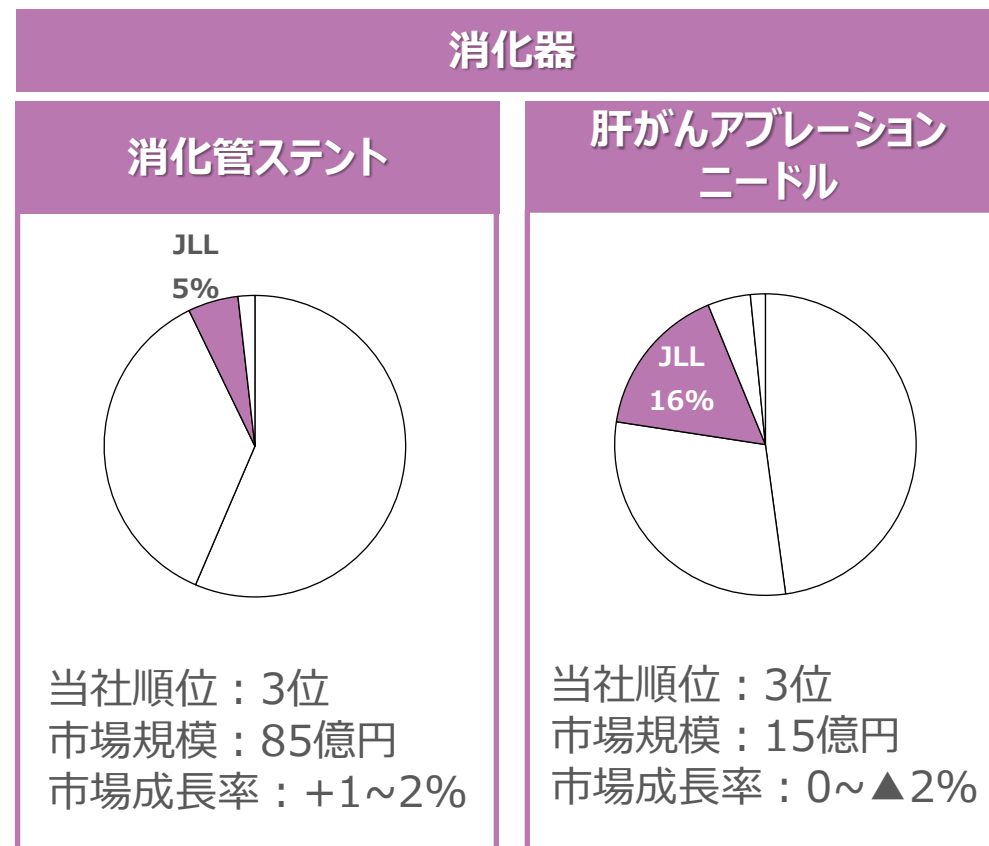
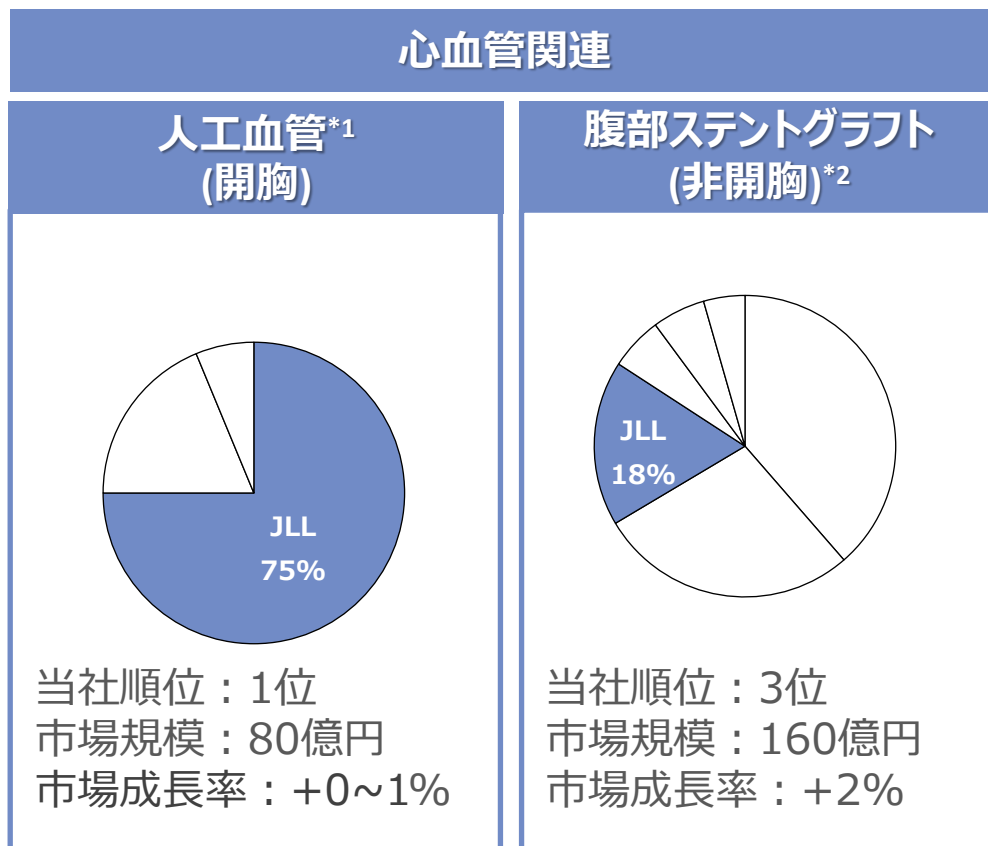
*5 消化器のみ

- ✓ リズムデバイス **BSC社*1のCRM商品をフルラインナップで取扱い、No.2ポジションをねらう**
- ✓ EP/アブレーション 外資系企業の圧倒的な存在感のなか、**EPカテーテルはトップシェア**



*1 Boston Scientific Corporation (米)
 *2 CRT-P (両心室心臓ペースメーカー) や徐脈用リードを含む
 *3 S-ICD (完全皮下植込み型除細動器)、CRT-D (除細動機能付き両心室ペースメーカー)、頻脈用リードを含む
 *4 心腔内除細動カテーテル (当社オンリーワン製品) や食道温モニタリングカテーテルを含む
 *5 バルーンアブレーション (冷凍バルーンやレーザーバルーン) を含む
 *6 R&Dや社内調査などを元に当社推定。当社順位、市場規模、市場成長率は2022年時点の予測値。市場成長率は、今後数年の当社による予想CAGR (金額ベース)

- ✓ 心血管関連 オンリーワンを含む自社製品のラインナップが市場で評価され、人工血管はトップシェア
- ✓ 消化器 胆膵内視鏡分野へ新規参入し、今後注力



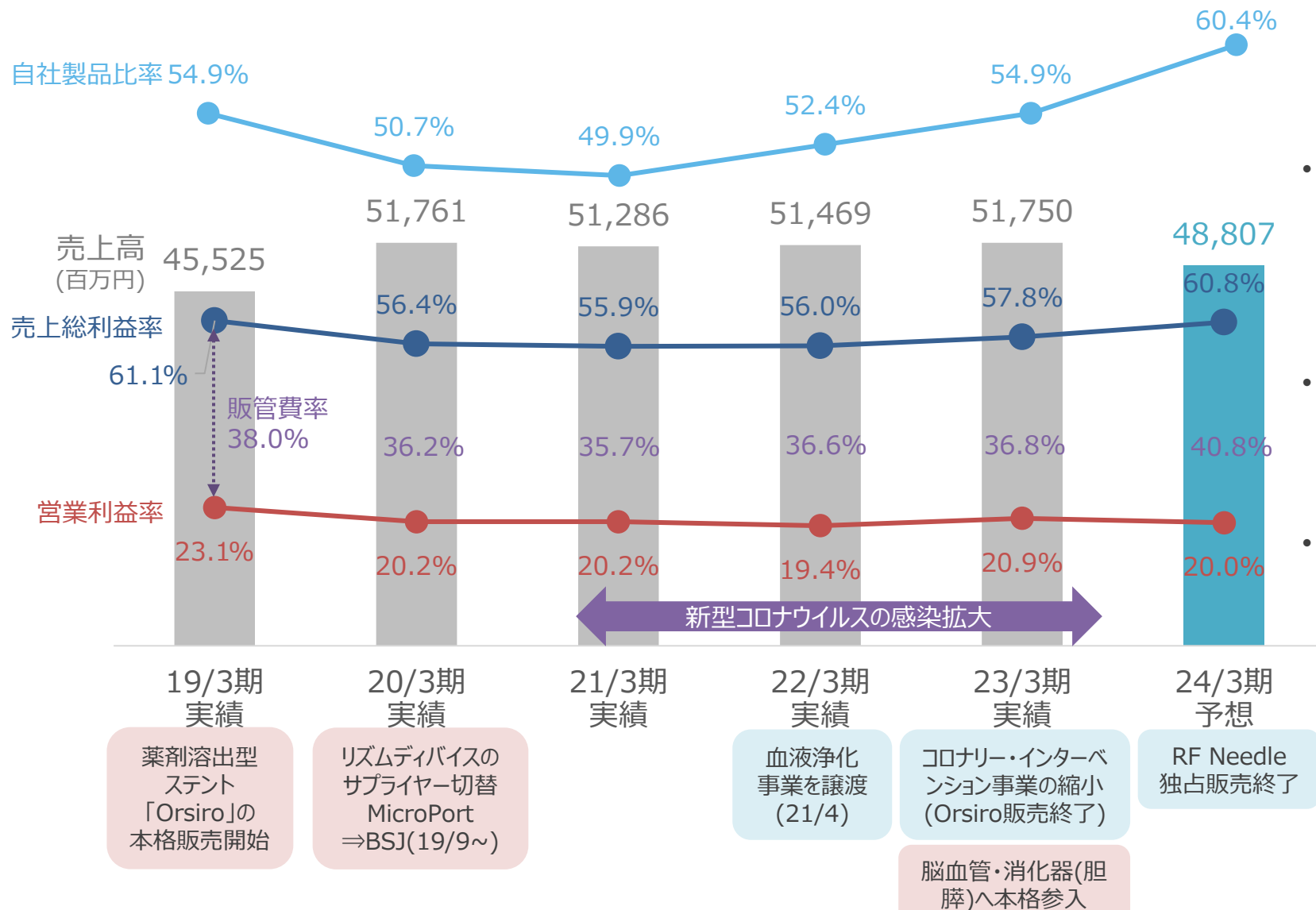
*1 オープンステントグラフト（当社オンリーワン製品）を含む

*2 メインボディのみ

1. 日本ライフラインとは
2. ビジネスモデル
3. 業績ハイライト
4. 中期経営計画
5. 資本政策・株主還元
6. サステナビリティ
7. ファクトシート
8. 補足資料

過去5年間の業績ハイライト

✓ 新型コロナウイルスの感染拡大や事業ポートフォリオの変革を背景に、過去5年の業績は横ばいで推移



- 19/3期以降、リズムデバイスのサプライヤー切替(BSJ)や薬剤溶出型ステントなどの仕入品の拡大
- 21/3期以降、新型コロナウイルスの感染拡大により症例数が抑制され、売上高成長が鈍化
- 22/3期～23/3期にかけて、血液浄化事業の譲渡やコロナリー・インターベンション事業の縮小など、事業整理を進める一方、新たに脳血管・消化器(胆膵)領域に本格参入

2024/3期 連結業績予想（通期）

23/3期Q4 決算説明資料より

✓ 前期比で減収、営業減益の見通し。当期純利益は前期並みを想定

| (単位:百万円) | 2024/3期 | | | 2023/3期 |
|---------------------|---------|--------|------|---------|
| | 通期予想 | YoY | % | 通期実績 |
| 売上高 | 48,807 | ▲2,943 | ▲5.7 | 51,750 |
| 売上総利益 | 29,691 | ▲203 | ▲0.7 | 29,895 |
| 構成比 | 60.8% | | | 57.8% |
| 販管費 | 19,927 | +870 | +4.6 | 19,057 |
| 構成比 | 40.8% | | | 36.8% |
| 営業利益 | 9,763 | ▲1,073 | ▲9.9 | 10,837 |
| 構成比 | 20.0% | | | 20.9% |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 6,854 | ▲37 | ▲0.5 | 6,891 |
| 構成比 | 14.0% | | | 13.3% |
| 自社製品比率 | 60.4% | | | 54.9% |

売上高 YoY ▲5.7% 減収

- (+) 新型コロナ沈静化に伴う症例数の回復
- (-) Baylis社製品の商流変更およびCI事業の縮小

営業利益 YoY ▲9.9% 減益

- (+) 自社製品比率の上昇 (+5.5pt)やBaylis社製品の商流変更に伴う売上総利益率の改善
- (+) 在庫の廃棄損・評価損の減少 (▲295M)
- (-) 人件費の増加 (ベースアップ等)
- (-) IT関連費、営業活動費の増加

当期純利益 YoY ▲0.5% 減益

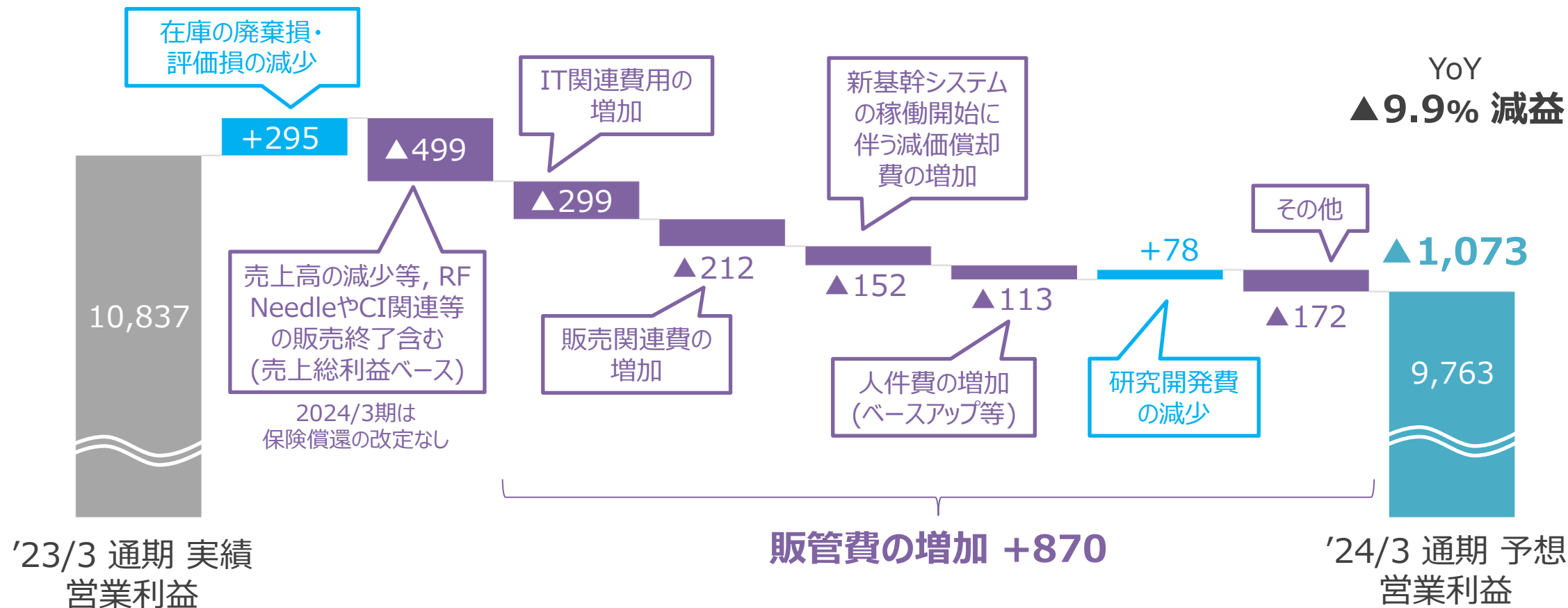
- (+) 前期に投資有価証券評価損 (特別損失) を計上 (1,190M)

2024/3期 連結営業利益 増減分析（通期）

23/3期Q4 決算説明資料より

✓ 販売終了品の大幅な減収に加え、販管費の増加により**営業減益**を見込む

(単位:百万円)



他社との競争激化のなか、シェアの維持を目指す

- ① ペースメーカー関連は、他社の新製品等の影響があり横ばいの見込み
- ② T-ICDは交換症例のピークが過ぎ減収となるも、S-ICDやCRT-Dは堅調に推移する見通し

| (単位:百万円) | 2024/3期 | | | 2023/3期 |
|-------------|---------|-----|------|---------|
| | 通期予想 | YoY | % | 通期実績 |
| ① ペースメーカー関連 | 5,011 | +32 | +0.6 | 4,979 |
| ② ICD関連 | 7,057 | +7 | +0.1 | 7,049 |
| ③ その他*1 | 361 | ▲12 | ▲3.2 | 374 |
| リズムデバイス 計 | 12,431 | +27 | +0.2 | 12,403 |

*1 AED、舌下神経電気刺激装置等を含む

Baylis社製品の商流変更により大幅な減収を見込む

- ① AF症例数は**前期比6%程度増加**の見込み
EPカテーテルは堅調な推移を予想、BeeATはラインナップを拡充し更なる拡販を目指す
- ② HeartLight X3は、商品供給問題が継続、販売への一定の影響が残る見通し
- ③ Baylis社製品は2023年3月末に独占販売を終了。4月以降は、BSJ社*1との販売パートナーシップ契約のもと、商流変更に伴い販売手数料を受領する想定も大幅な減収となる見通し

| (単位:百万円) | 2024/3期 | | | 2023/3期 |
|--------------|---------|--------|-------|---------|
| | 通期予想 | YoY | % | 通期実績 |
| ① EPカテーテル | 20,493 | +838 | +4.3 | 19,654 |
| ② ABLカテーテル | 976 | ▲34 | ▲3.4 | 1,011 |
| ③ その他*2 | 1,944 | ▲3,682 | ▲65.4 | 5,626 |
| EP/アブレーション 計 | 23,414 | ▲2,878 | ▲10.9 | 26,292 |

*1 Boston Scientific Japan

*2 スティールラブルシース、Baylis社製品等を含む

人工血管関連は堅調、脳血管関連は新商品を導入予定

- ① 腹部用ステントグラフトは引き続き安定的な成長を見込む
オープンステントグラフトはラインナップを増やし、医師のニーズに応える
- ② 塞栓用コイルは、取扱施設の拡大、ラインナップ拡充により販売数量を伸ばす見通し
血栓吸引カテーテル等、脳梗塞治療領域における重要な新商品を複数投入予定

| (単位:百万円) | 2024/3期 | | | 2023/3期 |
|----------|---------|------|--------|---------|
| | 通期予想 | YoY | % | 通期実績 |
| ① 人工血管関連 | 10,681 | +328 | +3.2 | 10,353 |
| ② 脳血管関連 | 622 | +392 | +170.6 | 230 |
| ③ その他* | 421 | ▲1 | ▲0.4 | 423 |
| 心血管関連 計 | 11,724 | +718 | +6.5 | 11,006 |

* 心房中隔欠損閉鎖器具、人工肺関連、生体弁等を含む



消化器関連の拡充と胆膵関連の拡販へ

- ① 消化器関連は、大腸用ステント、胃・十二指腸用ステントにおいて改良モデルを投入し販売を促進
胆膵関連は、胆管用チューブステントを中心にシェアの拡大に努める
- ② CI関連の一部製品の販売が残るが、事業縮小へ

| (単位:百万円) | 2024/3期 | | | 2023/3期 |
|----------|---------|--------|-------|---------|
| | 通期予想 | YoY | % | 通期実績 |
| ① 消化器関連 | 1,125 | +471 | +72.1 | 654 |
| ② その他* | 111 | ▲1,282 | ▲92.0 | 1,394 |
| 消化器 計 | 1,236 | ▲811 | ▲39.6 | 2,048 |

* 薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro」のほか、ガイドワイヤー、バルーンカテーテル、血管内圧測定用センサ付ガイドワイヤー等を含む

2024/3期 設備投資額/減価償却費/研究開発費/従業員数

23/3期Q4 決算説明資料より

- ✓ 設備投資額 : 2024/3期 新基幹システムの運用開始等
- ✓ 減価償却費 : 2024/3期 償却方法の変更「定率法→定額法」(-)、基幹システムの償却等 (+)

| (単 位 : 百 万 円) | 2020/3期 | 2021/3期*1 | 2022/3期 | 2023/3期*2 | 2024/3期 (予想)*3 |
|-----------------|---------|-----------|---------|-----------|-------------------|
| 設 備 投 資 額 | 2,536 | 1,382 | 1,633 | 976 | 3,128 |
| 減 価 償 却 費 | 1,264 | 1,525 | 1,611 | 1,566 | 1,603 |
| 研 究 開 発 費 | 1,743 | 1,667 | 2,159 | 2,316 | 2,238 |
| 期末従業員数 連結 | 1,074 | 1,167 | 1,205 | 1,166 | 1,229 |
| (名) 単体 | 995 | 995 | 984 | 962 | 993 |

*1 2021/3期より、JLLマレーシア社を新規連結

*2 2023/3期末に、子会社の心宜医療器械（深圳）有限公司（JLL Shenzhen Co., Ltd.）を売却

*3 2024/3期より、減価償却方法を定額法に統一

1. 日本ライフラインとは
2. ビジネスモデル
3. 業績ハイライト
4. 中期経営計画
5. 資本政策・株主還元
6. サステナビリティ
7. ファクトシート
8. 補足資料

✓ 新中期経営計画の枠組みを以下のように設定し、今後、毎年進捗レビューを行います

- 対象期間 固定の5年間 2024/3期から2028/3期
- 数値目標 売上高、新領域*1売上高、営業利益率、EPS、ROIC
- 進捗レビュー 年1回 Q4決算発表時 (5月頃)
時間経過とともに顕在化したアップサイド/ダウンサイドを踏まえ、
残期間での数値目標の「達成見通し」を毎年開示する

*1 脳血管領域と消化器領域

✓ 着実な売上高・営業利益の成長に加え、資本効率を意識した経営を推進

売上高
630億円
(2028/3期)

新領域*¹売上高
80億円
(2028/3期)

営業利益率
20%水準
(毎期)

EPS
120円
(2028/3期)

ROIC
12%
(2028/3期)

1. 新領域の拡大

- 脳血管及び消化器領域の拡大に最注力

2. 競争力のある製品の継続的導入

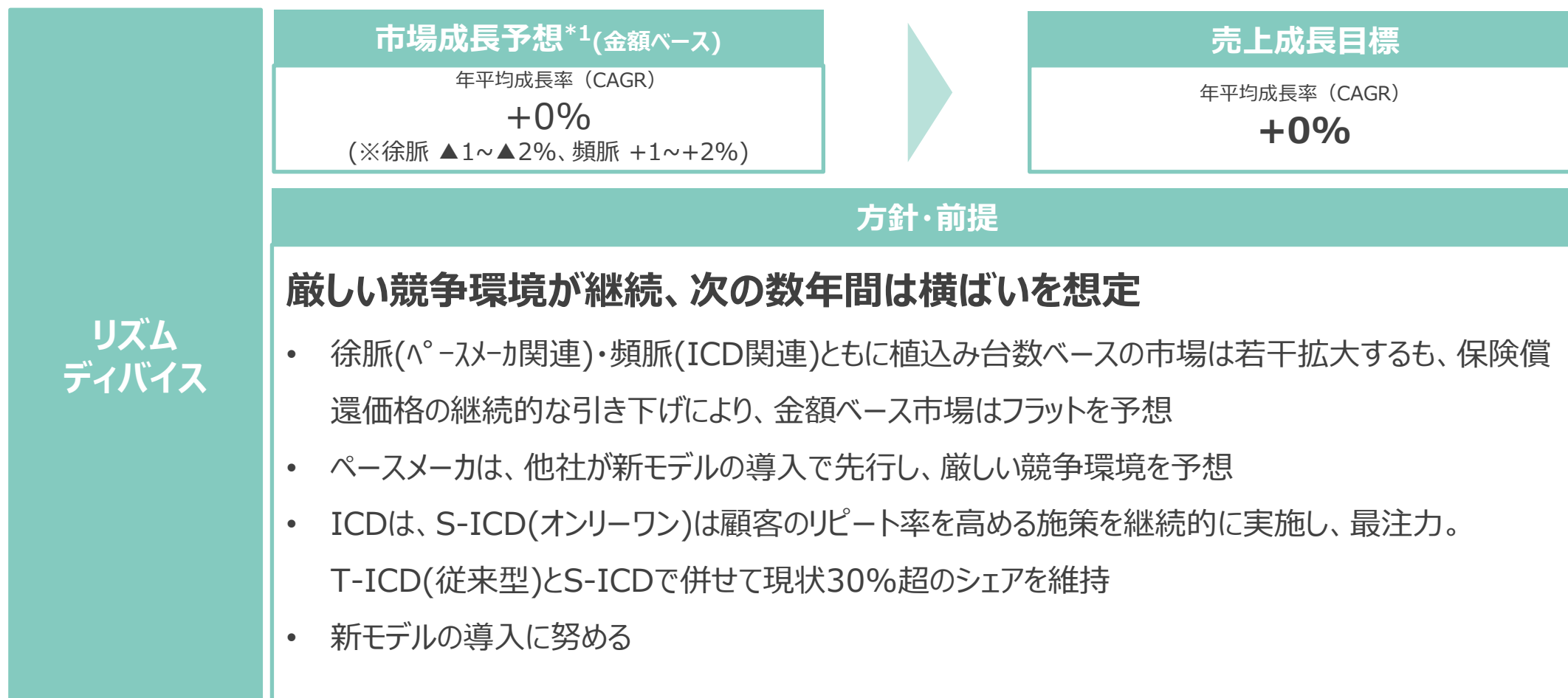
- オンリーワン製品の再強化
- 継続的に新製品・商品を導入し、市場競争力と高い粗利率(55～58%程度)を確保
- 研究開発の強化

3. 資本効率を意識した経営の強化

- 資本効率を意識した経営を実行
- システム投資の強化
- オペレーション(営業効率や在庫効率)の改善
- 株主還元強化

*1 脳血管領域と消化器領域

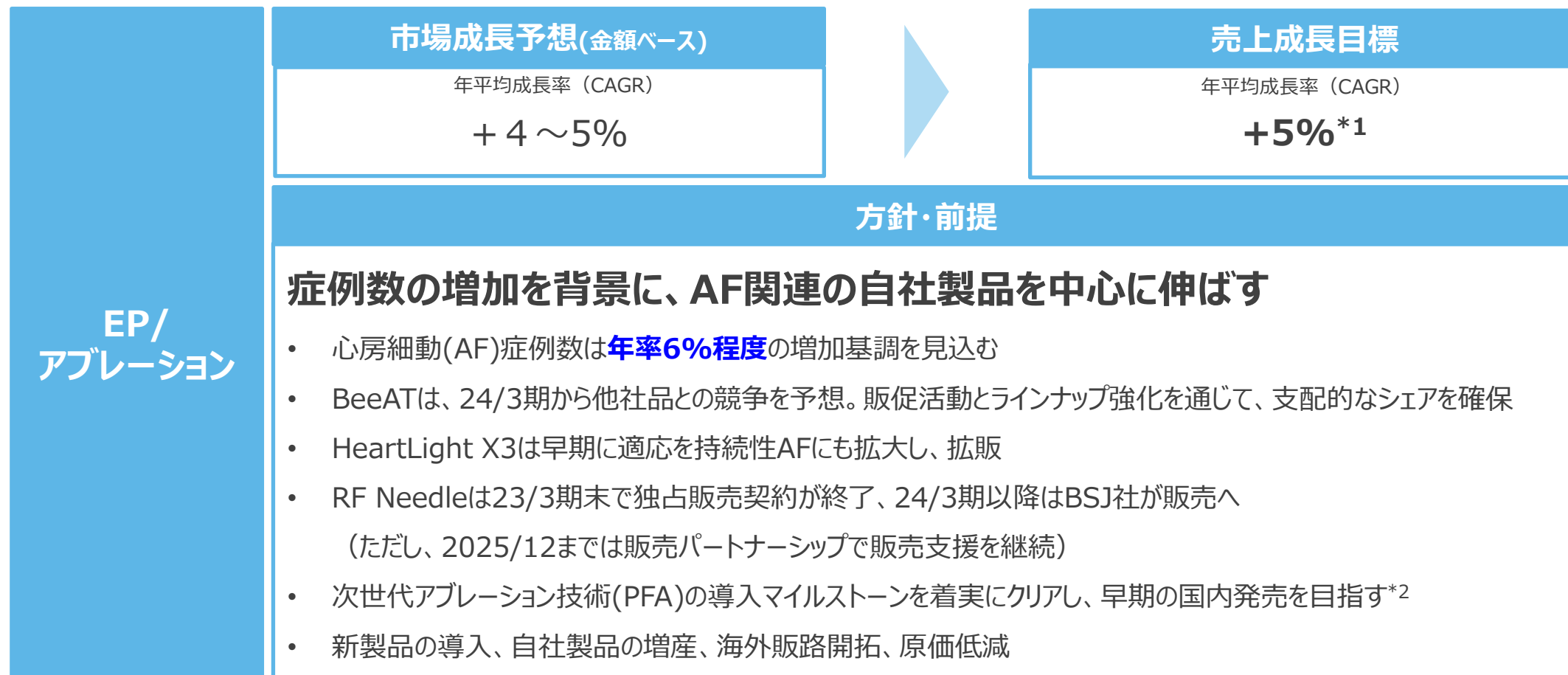
✓ リズムデバイスは、厳しい競争環境があるなか、**市場成長率並みの売上高成長を確保**



リズム
デバイス

*1 シンクタンクによる市場調査や自社データベース等を元に推定した今後数年間の予想 (次スライド以降も同様)

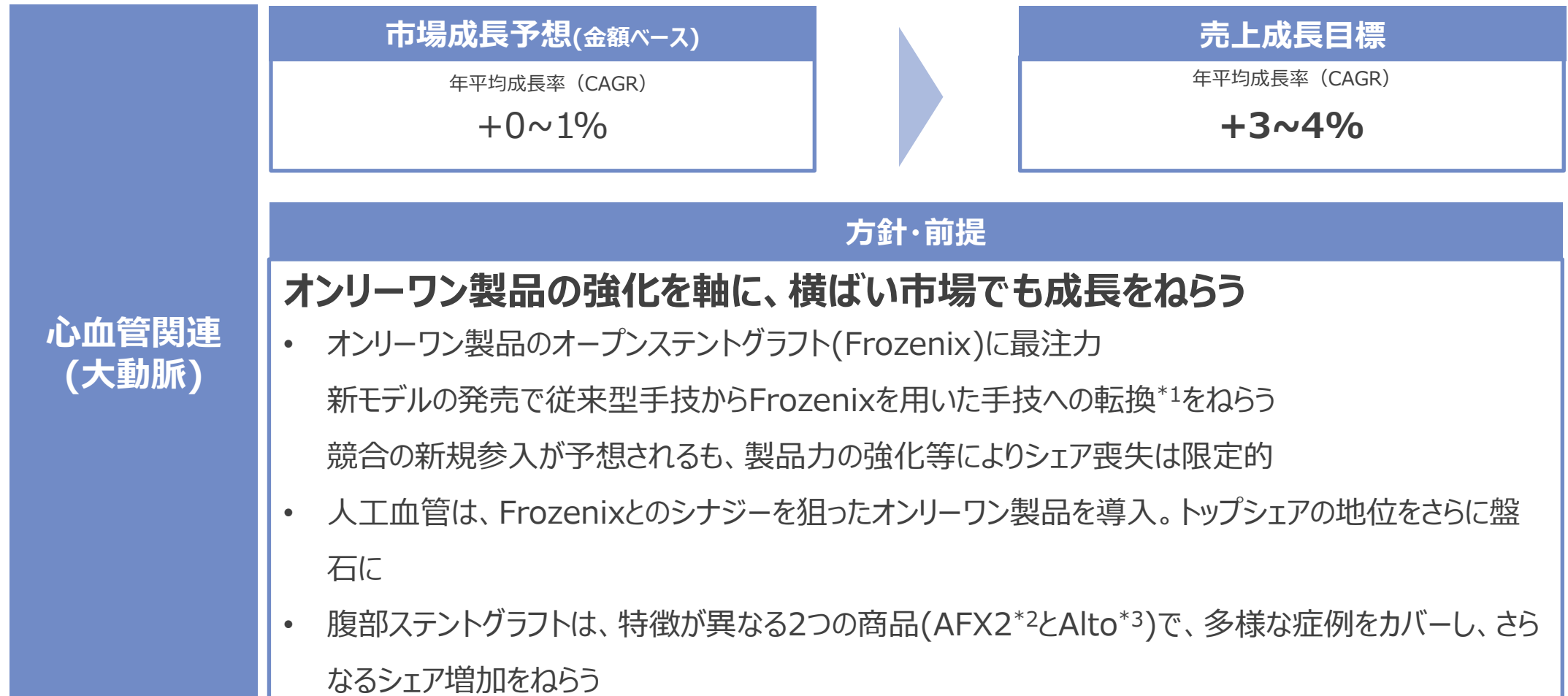
- ✓ EP/アブレーションは、23/3期でRF Needleの独占販売契約が終了し、**一時的に大幅な減収**となるも、個別の製品の拡販や新製品の導入等で**市場並みの成長を確保**



*1 RF Needleの独占販売契約が終了し、大きく減収となる24/3期を起点として28/3期までの4年間で算定

*2 米Galvanize Therapeutics社(前Galaxy Medical)と提携し、同社の装置と当社のカテーテルシャフトを組み合わせたPFA製品を開発中

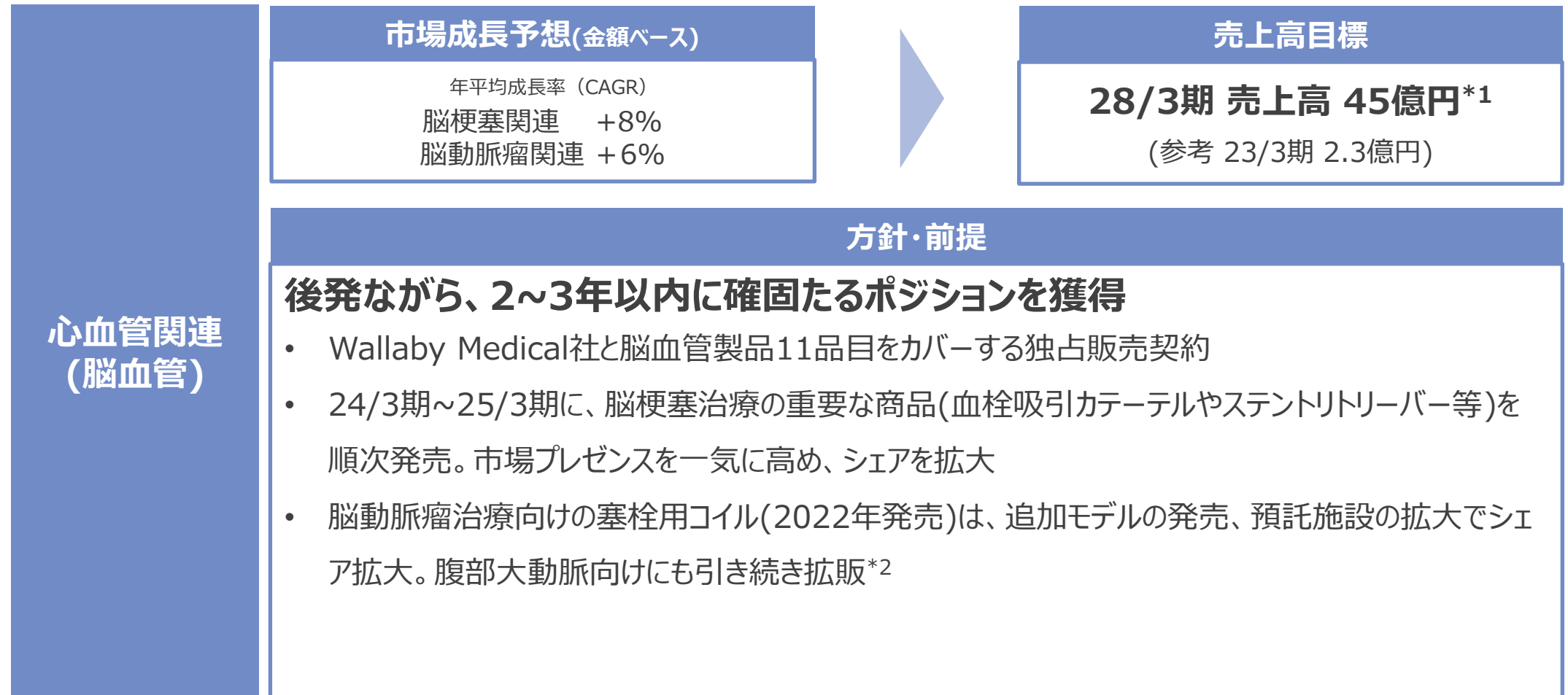
- ✓ 心血管関連(大動脈)は、**オンリーワンの武器をさらに磨き、トップシェアの地位をより盤石に**



*1 急性A型解離の年間症例数6,600例のうち、従来型手技(Conventional Elephant Trunk)は約20%、オープンスtentグラフト「Frozenix」を用いたFrozen Elephant Trunk手技は、約30%強を占めると想定

*2・3 腹部用stentグラフトシステム (米Endologix社製)

- ✓ 心血管関連（脳血管）は、**脳梗塞治療向けデバイスを早期にそろえ、高成長を目指す**



*1*2 目標金額には塞栓用コイルの腹部領域向けの販売を含む（2028/3期の腹部領域向けは全体の35%程度を想定）
当社は腹部大動脈の領域で既に人工血管等での販売実績と顧客基盤を有しており、塞栓用コイルの販売においてシナジーを見込んでいます。

- ✓ Wallaby Medical社と脳血管内治療デバイス11品目について、10年間の独占販売契約を締結

| | |
|----------------|--|
| 発売時期 | 2021/12 塞栓用コイル(発売済) 2024/3期～2028/3期 |
| 品目区分 | 心血管関連 外科関連/仕入商品 Wallaby Medical (中国) phenox (ドイツ) |
| 製品概要 | 脳血管内治療デバイス11品目 (10年間の独占販売契約) |
| 対象となる 症例・疾患 | 脳血管内治療 3万例/年*1 <ul style="list-style-type: none"> 急性期脳梗塞 脳動脈瘤 |

*1 急性期脳梗塞・脳動脈瘤の症例数の合計。頸動脈狭窄症へのステント留置術などを除く



- 脳血管内治療デバイスに特化
- 塞栓用コイル、血栓吸引カテーテル
- 販売実績30か国以上

2022年4月
買収



- 脳血管内治療デバイスに特化
- フローダイバーターなど新規性の高い商品を含む幅広いランナップ
- 販売実績45か国以上

長期
独占
販売
契約

グローバルな販売実績を
有する2社の脳血管関
連商品をすべてカバー



- ✓ 脳血管内治療の市場は大きく「急性期脳梗塞」、「脳動脈瘤」、「頸動脈狭窄症」に分かれる
- ✓ 市場全体は2022年で約300億円290億円。今後、CAGR+5~64~5%の成長を予想

急性期脳梗塞

市場規模 約110億円
予想成長率 CAGR +8% +6%



血栓吸引カテーテル



PTAバルーンカテーテル



ステントリトリバー



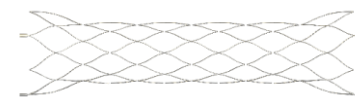
マイクロカテーテル

バルーンガイド
カテーテル

ガイド
シース

脳動脈瘤

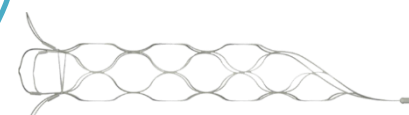
市場規模 約150億円140億円
予想成長率 CAGR +6% +3%



ステントアシスト



脳血管攣縮用ステント



分岐部瘤用ステント



塞栓用コイル



フローダイバーター

頸動脈狭窄症

市場規模 約40億円
予想成長率 CAGR+2%

当社取扱いなし

*1 市場規模や成長率はR&D2022及び自社調査をもとに推計

当社の脳血管領域の製品ラインナップ

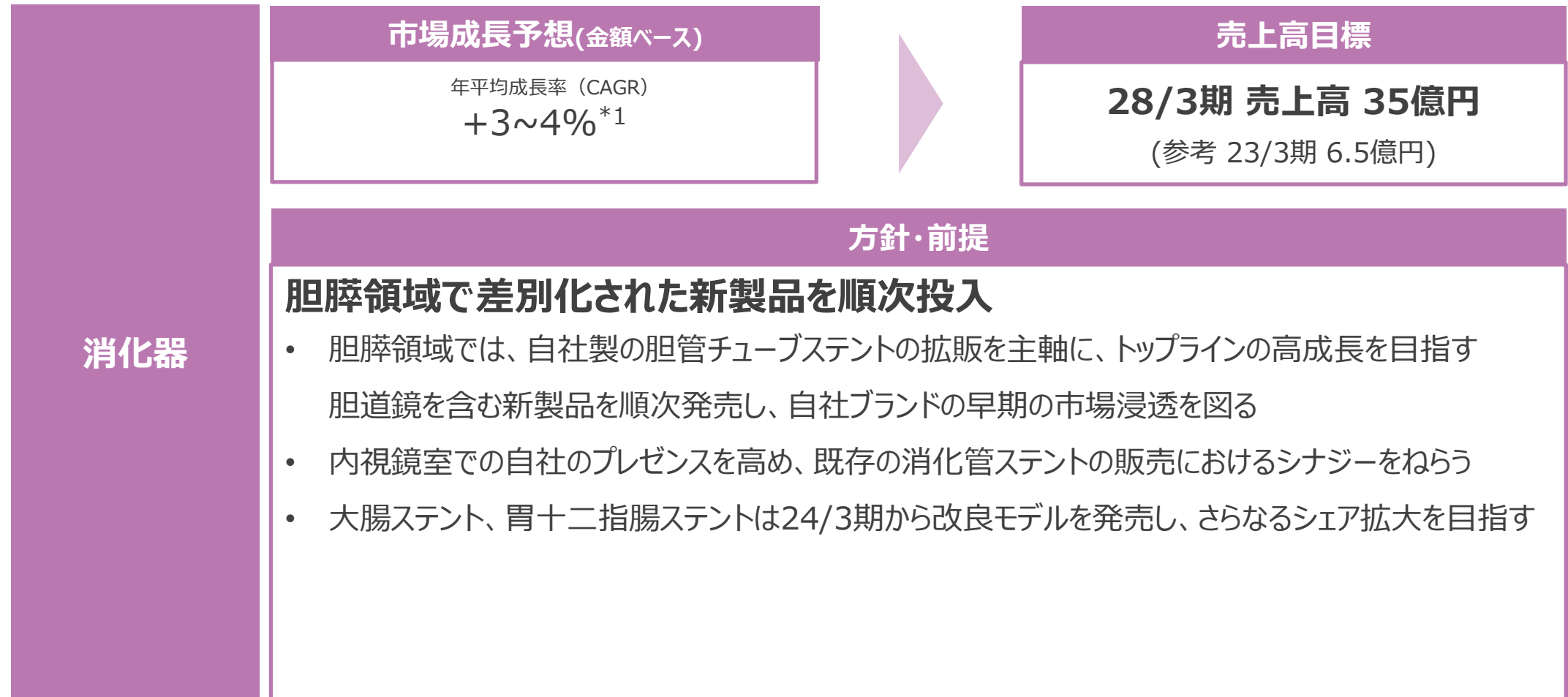
23/3期 Q2 決算説明資料より
(修正箇所は赤字で明示あり)

✓ 参入企業が多い中、後発ながら5年以内に業界内随一のラインナップを揃える見通し

| 品目 | 急性期脳梗塞 | | | | | | 脳動脈瘤 | | | | |
|-----------|-----------------------------|-------------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| | 血栓吸引カテーテル | ステントリリーバー | バルーンガイドングカテーテル | マイクロカテーテル | ガイドングシース | PTAバルーンカテーテル | 塞栓用コイル | ステントアシスト | フローダイバーター | 分岐部瘤用ステント | 脳血管攣縮用ステント |
| 当社 | ○ '24/3期 Q1発売 発売予定 | ○ '25/3期 '24/3期 発売予定 | ○ '24/3期 Q3発売予 定 | ○ '24/3期 Q2発売予 定 | ○ '25/3期 以降 発売予定 | ○ '25/3期 以降 発売予定 | ○ '21/12*1 発売済 | ○ '27/3期 以降 発売予定 | ○ '28/3期 以降 発売予定 | ○ '27/3期 以降 発売予定 | ○ '27/3期 以降 発売予定 |
| 海外A社 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 国内B社 | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 海外C社 | | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | |
| 海外D社 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 国内E社 | | | | ○ | | | ○ | | | | |
| 国内F社 | | | | | | | ○ | | | | |
| 国内G社 | ○ | | | | | | ○ | | | | |

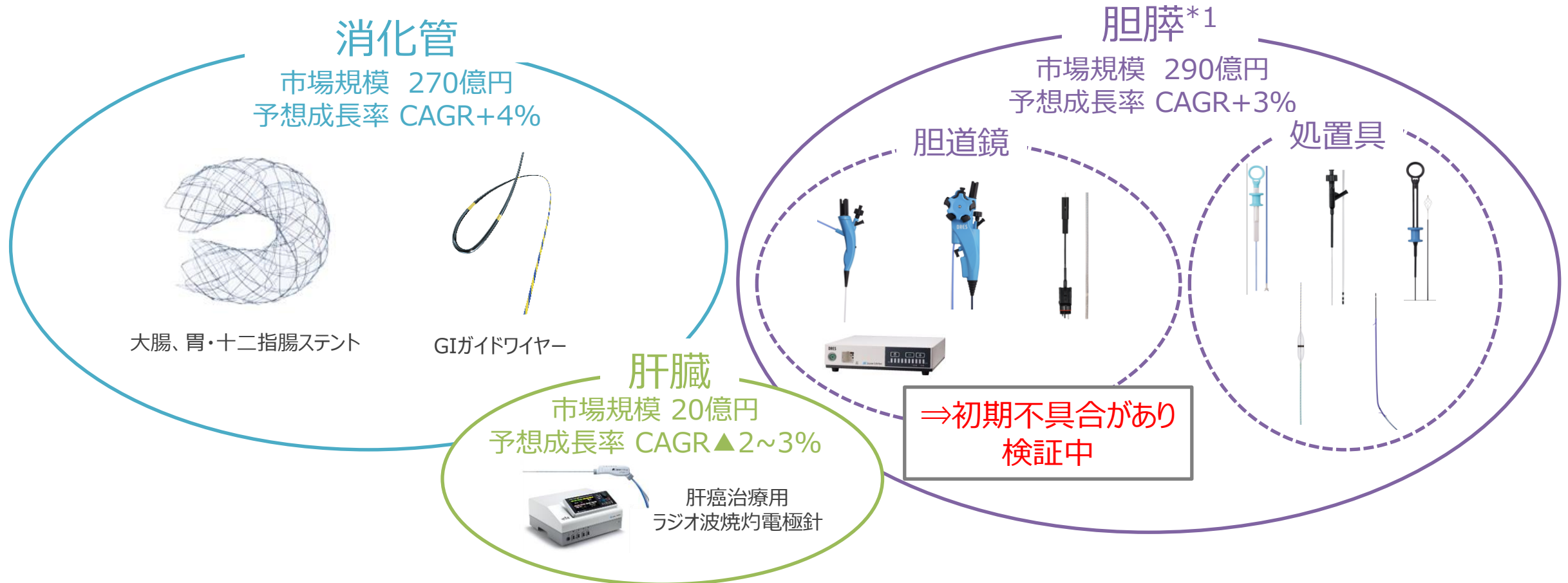
*1 販売開始時は腹部領域向けに限定販売。2022/4以降、脳血管領域向けにも販売開始

- ✓ 消化器は、胆膵領域で新製品を順次投入し、5か年で安定した収益の柱を構築する



*1 対象市場は、胆膵処置具、消化器メタリックステント、肝臓RFAの合計（消化管用処置具やPI関連を含まない）

- ✓ 消化器領域の市場は大きく「消化管」、「胆膵」、「肝臓」領域に分かれる
- ✓ 市場全体は2022年予測で約580億円、**CAGR+3~4%**であり今後も安定的に成長している市場



*1 胆道鏡を含む 市場規模や成長率はR&D2022及び自社調査をもとに推計

✓ 中期経営計画に係る主な事業のリスクや織り込んでいる前提は、次の通りです(重要度順)

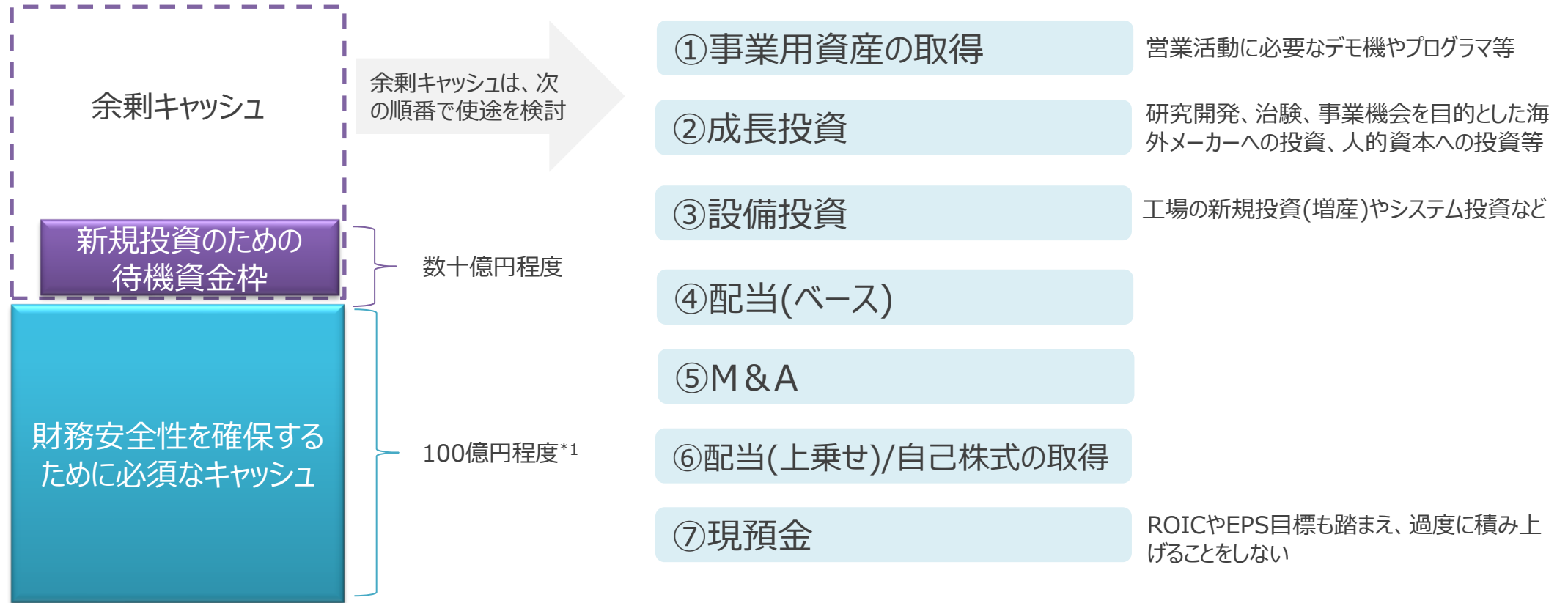
| リスク | 説明 | 計画に織り込んでいる前提 |
|-------------------------------------|---|---|
| オンリーワン製品の想定以上のシェア喪失 | <ul style="list-style-type: none"> オンリーワン製品の除細動カテーテル(BeeAT)及びオープンステントグラフト(Frozenix)の売上高は、23/3期で全体の30%強を占め、利益貢献も大 これらは24/3期以降、競合の新規参入を予想 | 一定のシェア喪失を見込むも、5年後に支配的なシェアを維持 |
| 症例数の伸び率や市場成長率の想定以上の鈍化 | <ul style="list-style-type: none"> 調査会社の市場レポート等を参考に、製品カテゴリー別の市場成長を販売計画に反映 特に、自社製品の中心であるEPカテーテルの売上高は、心房細動(AF)症例数の伸び率と強く相関 | AF症例数 CAGR 6%程度(24/3~28/3期) |
| 保険償還価格の想定以上の下落 | <ul style="list-style-type: none"> 保険償還価格は特定保険医療材料の機能区分別に定められており、2年に1回改定(下落) 改定年は、売上高・売上総利益に影響があり | 過去の下落幅と昨今の競争環境を考慮し、25/3期と27/3期に合理的と思われる下落幅を想定 |
| プロダクト導入マイルストーンの未達成による発売時期の遅延または発売中止 | <ul style="list-style-type: none"> 発売に至るまでに、開発、臨床試験(治験)、当局の承認取得等、様々なマイルストーンあり マイルストーンの未達成やスケジュール遅延は、実績が計画から乖離する理由となる | 各プロダクトのマイルストーン(オープンステントグラフトの新製品など) |
| インフレや円安の進行による原価や費用の高騰 | <ul style="list-style-type: none"> インフレや円安の亢進に伴い、原材料の調達コスト、商品の仕入コスト、販管費の上昇が発生 ⇒ 売上総利益や営業利益を圧迫 | 年2~3%程度のインフレ影響の織り込みあり。1ドル=130円程度の為替レートを想定 |

1. 日本ライフラインとは
2. ビジネスモデル
3. 業績ハイライト
4. 中期経営計画

5. 資本政策・株主還元
6. サステナビリティ
7. ファクトシート
8. 補足資料

キャッシュアロケーション

- ✓ 今後5年間では、安定的な営業キャッシュフローの獲得を見込む
- ✓ 必要なキャッシュを確保したうえで、余剰キャッシュは、以下の優先順位にしたがって用途を検討



*1 23/3期末時点での目安であり、今後の事業環境の変化によって変動します

✓ 中期の5年間では、研究開発を中心に、毎年40～50億円程度の成長投資を見込む

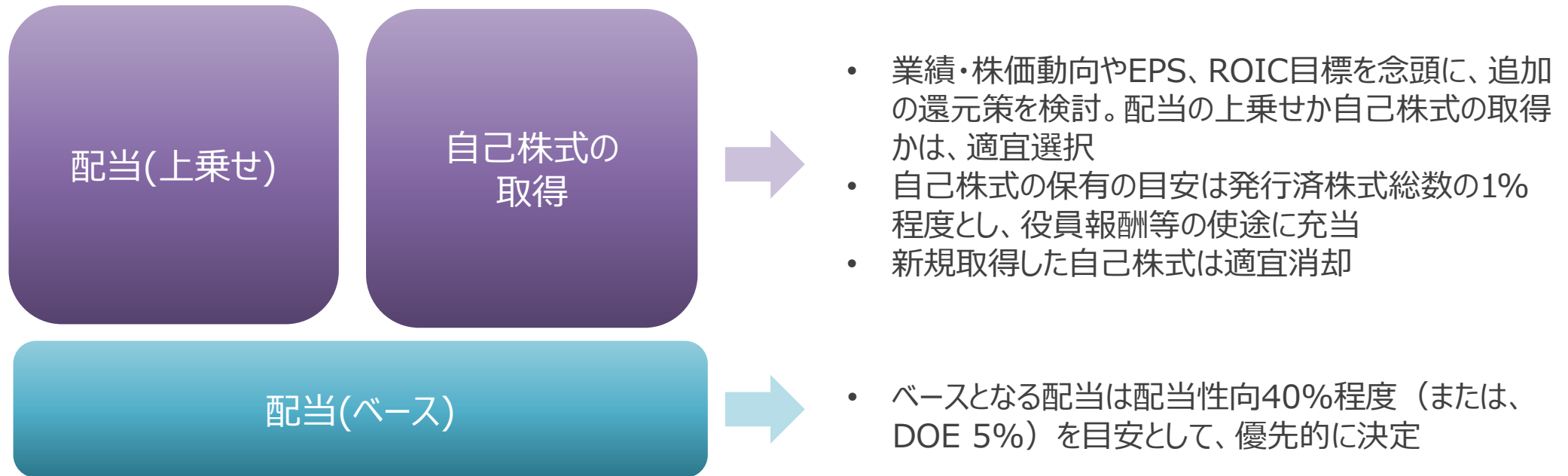
| 項目 | 金額目安 | 概要 |
|-----------|------------------|---|
| 研究開発費 | 25～30億円/年 | <ul style="list-style-type: none"> • 消化器(胆膵)、PFA*2、バルーンアブレーション、高機能シャフト、再生医療などの研究開発を加速し、研究開発費は年4～5%程度の増加見込み • 自社開発品や投資案件は、案件立ち上げ時に社内で諮問委員会を開催し、収益性を精査 |
| 設備投資 | 15～20億円/年 | <ul style="list-style-type: none"> • 業務システムを刷新し、24/3期から稼働開始*1 • 生産設備関連の大型投資は現時点では見込まない • 減価償却費は、16～18億円/年の水準での推移を見込む |
| 治験 | 1～2億円/年 | <ul style="list-style-type: none"> • オープンステントグラフト(オンリーワン製品)などの治験を見込む |
| その他 | 1～2億円/年 | <ul style="list-style-type: none"> • 有望なプロダクトを有する海外メーカー等に投資し、新たな事業機会獲得をねらう |
| 合計 | 40～50億円/年 | |

*1 24/3期は、新業務システムの稼働開始により、設備投資額は3,128百万円を予想

*2 PFA=Pulsed electric Field Ablation パルスフィールドアブレーション

- ✓ キャッシュアロケーションの優先順位にしたがって、配当と自己株式の取得を通じて**株主還元を大幅に強化**
- ✓ 業績動向と数値目標*1（EPS 120円、ROIC 12%）を踏まえて決定

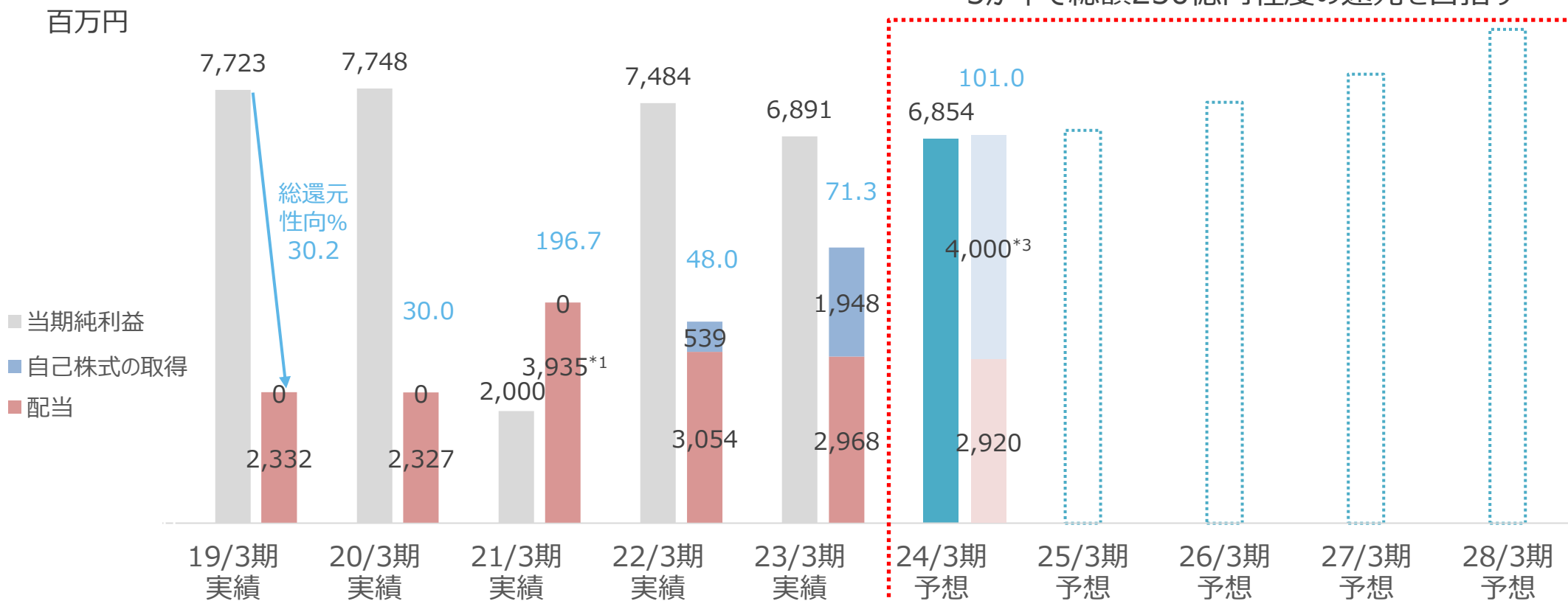
今後、5年間で配当と自己株式の取得を合わせた還元総額として、**250億円**程度を想定



*1 28/3期における目標

✓ ベース配当(配当性向40%程度)を維持しつつ、今後5年で配当の上乗せと自己株式の取得で還元策を強化

5か年で総額250億円程度の還元を目指す



| | | | | | | | | | | |
|------------|-------|-------|---------------------|-------|-------|-------|---|---|---|---|
| EPS(円) | 96.05 | 96.55 | 24.91 | 93.13 | 88.22 | 89.13 | - | - | - | - |
| 1株当たり配当(円) | 29.00 | 29.00 | 49.00 ^{*1} | 38.00 | 38.00 | 38.00 | - | - | - | - |
| 配当性向(%) | 30.2 | 30.0 | 196.7 ^{*2} | 40.8 | 43.1 | 42.6 | - | - | - | - |

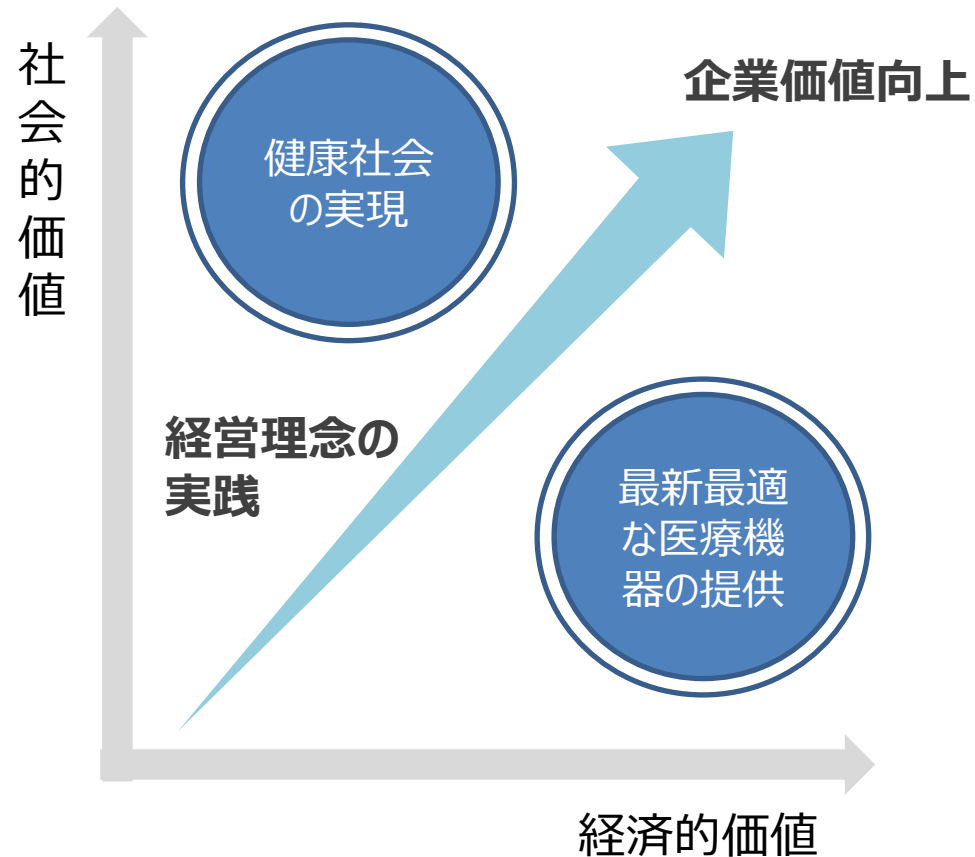
*1 創立40周年記念配当20円を含む。 *2 多額の特別損失の計上（5,982百万円）があったため、異常値となっています。 *3 2024年3月期の自己株式の取得の上限額

- ✓ 2023/5/10開催の取締役会にて、自己株式の取得及び消却に関する事項を決定
 - 取得する株式の種類 普通株式
 - 取得する株式の総数 300万株 (上限)
発行済株式(自己株式除く)の3.9%
 - 取得する株式の総額 40億円 (上限)
 - 取得する期間 2023/5/11から2024/2/29
 - 取得する方法 東京証券取引所における市場買付
(証券会社による取引一任方式)
 - 消却する株式の種類 普通株式
 - 消却する株式の総数 上記自己株式の取得後、発行済株式の
1.0%を超過した株式数
 - 消却予定日 2024/3/15

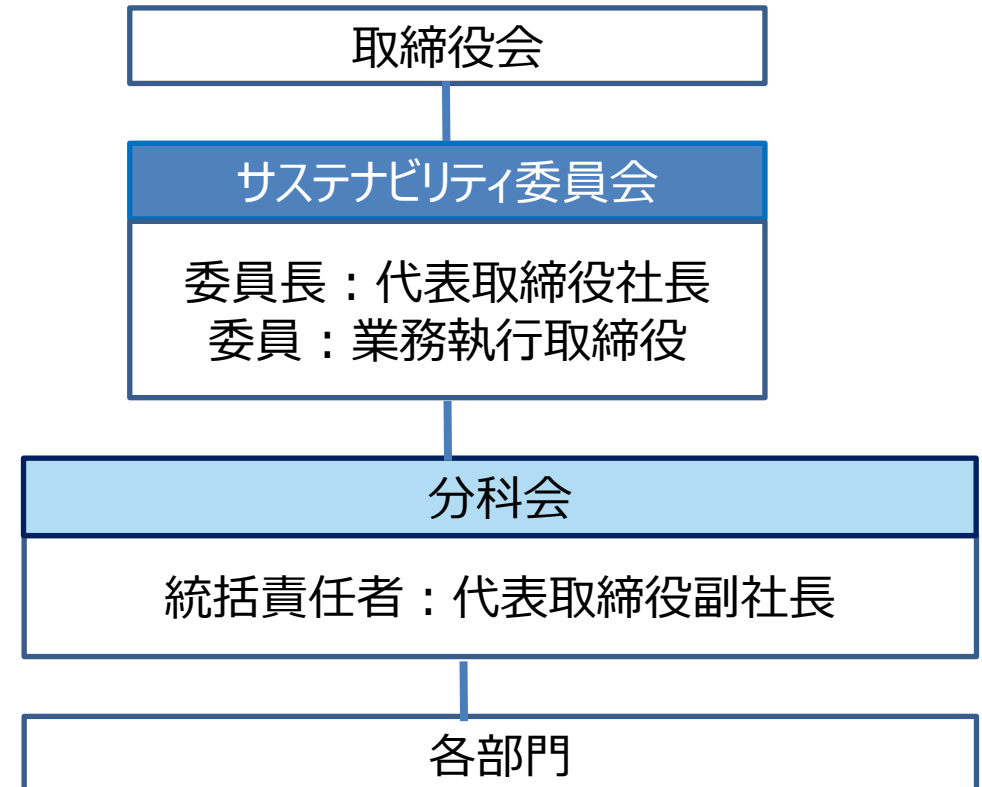
1. 日本ライフラインとは
2. ビジネスモデル
3. 業績ハイライト
4. 中期経営計画
5. 資本政策・株主還元
6. サステナビリティ
7. ファクトシート
8. 補足資料

- ✓ ESG・サステナビリティに関する取り組みが「**経営理念の実践**」と「**企業価値向上**」につながる
- ✓ 代表取締役社長が委員長である**サステナビリティ委員会**が中心となって推進する

サステナビリティに関する考え方



サステナビリティ推進体制



✓ 特定した**当社のマテリアリティ**（重要課題）に取り組む

| | 当社のマテリアリティ | 主な取り組み | SDGs |
|-------------|---|--|------|
| Philosophy | <ul style="list-style-type: none"> 革新的な医療機器による医療課題の解決 | <ul style="list-style-type: none"> 研究開発費の進捗管理 独自技術の他領域への応用・展開の検討 | |
| Environment | <ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の軽減 | <ul style="list-style-type: none"> TCFD提言に基づく情報開示 環境配慮製品の企画 | |
| Social | <ul style="list-style-type: none"> 従業員が安心して働ける職場づくり 人材の育成と活躍機会の提供 製品の品質と安定供給 | <ul style="list-style-type: none"> 女性活躍研修の実施 従業員満足度調査の実施 グローバルな規制要求への対応 | |
| Governance | <ul style="list-style-type: none"> コーポレート・ガバナンスの強化 コンプライアンスの推進 | <ul style="list-style-type: none"> コーポレートガバナンスコードへの対応 行動規範の制定 | |

1. 日本ライフラインとは
2. ビジネスモデル
3. 業績ハイライト
4. 中期経営計画
5. 資本政策・株主還元
6. サステナビリティ
7. ファクトシート
8. 補足資料

4. ファクトシート 1/4

| 連結損益計算書 | | 2018/3期 | 2019/3期 | 2020/3期 | 2021/3期 | 2022/3期 | 2023/3期 | 2024/3期 |
|------------|-----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | FY2017 | FY2018 | FY2019 | FY2020 | FY2021 | FY2022 | FY2023 |
| | | 通期 | 通期 | 通期 | 通期 | 通期 | 通期 | 通期 |
| | | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 予想 |
| 売上高 | 百万円 | 42,298 | 45,525 | 51,761 | 51,286 | 51,469 | 51,750 | 48,807 |
| (売上高 前年比) | % | 13.8 | 7.6 | 13.7 | -0.9 | 0.4 | 0.5 | -5.7 |
| 売上原価 | 百万円 | 15,722 | 17,703 | 22,570 | 22,622 | 22,634 | 21,855 | 19,115 |
| 売上総利益 | 百万円 | 26,576 | 27,822 | 29,191 | 28,664 | 28,835 | 29,895 | 29,691 |
| 売上総利益率 | % | 62.8 | 61.1 | 56.4 | 55.9 | 56.0 | 57.8 | 60.8 |
| 販管費 | 百万円 | 15,904 | 17,295 | 18,756 | 18,296 | 18,861 | 19,057 | 19,927 |
| 営業利益 | 百万円 | 10,671 | 10,526 | 10,434 | 10,367 | 9,973 | 10,837 | 9,763 |
| 営業利益率 | % | 25.2 | 23.1 | 20.2 | 20.2 | 19.4 | 20.9 | 20.0 |
| (営業利益 前年比) | % | 34.0 | -1.4 | -0.9 | -0.6 | -3.8 | 8.7 | -9.9 |
| 営業外収益 | 百万円 | 259 | 571 | 891 | 1,031 | 316 | 293 | 147 |
| 営業外費用 | 百万円 | 200 | 289 | 900 | 879 | 285 | 224 | 379 |
| 経常利益 | 百万円 | 10,730 | 10,808 | 10,425 | 10,519 | 10,005 | 10,905 | 9,531 |
| 経常利益率 | % | 25.4 | 23.7 | 20.1 | 20.5 | 19.4 | 21.1 | 19.5 |
| 特別利益 | 百万円 | 1 | 5 | 3 | 3 | 44 | 100 | - |
| 特別損失 | 百万円 | 116 | 12 | 4 | 5,982 | 8 | 1,217 | 4 |
| 税引前当期純利益 | 百万円 | 10,615 | 10,801 | 10,425 | 4,540 | 10,041 | 9,789 | 9,527 |
| 税金費用 | 百万円 | 3,137 | 3,077 | 2,676 | 2,540 | 2,556 | 2,897 | 2,673 |
| 当期純利益 | 百万円 | 7,478 | 7,723 | 7,748 | 2,000 | 7,484 | 6,891 | 6,854 |
| 当期純利益率 | % | 17.7 | 17.0 | 15.0 | 3.9 | 14.5 | 13.3 | 14.0 |
| 自社製品比率 | % | 55.4 | 54.9 | 50.7 | 49.9 | 52.4 | 54.9 | 60.4 |
| 研究開発費 | 百万円 | 1,121 | 1,431 | 1,743 | 1,667 | 2,159 | 2,316 | 2,238 |
| 設備投資 | 百万円 | 3,630 | 1,248 | 2,536 | 1,382 | 1,633 | 976 | 3,128 |
| 減価償却費 | 百万円 | 953 | 1,176 | 1,264 | 1,525 | 1,611 | 1,566 | 1,603 |

当社HPにて、PDF版とエクセル版をダウンロード可能です。https://www.jll.co.jp/investors/library_4.html

4. ファクトシート 2/4

| 連結貸借対照表 | | 2018/3期 | 2019/3期 | 2020/3期 | 2021/3期 | 2022/3期 | 2023/3期 | 2024/3期 |
|------------|-----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | FY2017 | FY2018 | FY2019 | FY2020 | FY2021 | FY2022 | FY2023 |
| | | 通期 | 通期 | 通期 | 通期 | 通期 | 通期 | 通期 |
| | | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 予想 |
| 流動資産 | 百万円 | 40,821 | 41,665 | 44,077 | 44,522 | 45,153 | 47,130 | — |
| 有形固定資産 | 百万円 | 9,914 | 9,920 | 11,341 | 13,111 | 12,911 | 12,452 | — |
| 無形固定資産 | 百万円 | 576 | 558 | 493 | 505 | 1,470 | 2,414 | — |
| 投資その他 | 百万円 | 9,668 | 15,638 | 19,089 | 14,822 | 13,662 | 12,643 | — |
| 固定資産 | 百万円 | 20,159 | 26,117 | 30,923 | 28,439 | 28,044 | 27,510 | — |
| 資産 | 百万円 | 60,980 | 67,783 | 75,000 | 72,962 | 73,197 | 74,641 | — |
| 流動負債 | 百万円 | 15,452 | 14,580 | 16,093 | 16,467 | 14,211 | 14,381 | — |
| 固定負債 | 百万円 | 4,438 | 6,709 | 7,500 | 5,190 | 4,418 | 4,063 | — |
| 負債 | 百万円 | 19,890 | 21,289 | 23,594 | 21,657 | 18,629 | 18,445 | — |
| 株主資本 | 百万円 | 41,088 | 46,496 | 51,618 | 51,267 | 54,362 | 56,265 | — |
| その他包括利益累計額 | 百万円 | -11 | -16 | -211 | 37 | 205 | -69 | — |
| 新株予約権 | 百万円 | 13 | 13 | — | — | — | — | — |
| 純資産 | 百万円 | 41,090 | 46,493 | 51,406 | 51,304 | 54,567 | 56,195 | — |
| 負債純資産 合計 | 百万円 | 60,980 | 67,783 | 75,000 | 72,962 | 73,197 | 74,641 | — |

| | | | | | | | | |
|--------------------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---|
| 現金及び預金 | 百万円 | 6,732 | 8,018 | 9,555 | 13,708 | 16,058 | 18,357 | — |
| 売上債権 | 百万円 | 12,331 | 12,178 | 13,762 | 13,145 | 12,437 | 13,223 | — |
| 棚卸資産 | 百万円 | 13,579 | 17,071 | 18,187 | 15,987 | 14,850 | 13,142 | — |
| 仕入債務 | 百万円 | 2,278 | 3,087 | 4,081 | 2,872 | 3,287 | 3,429 | — |
| 利益剰余金 | 百万円 | 25,091 | 30,499 | 35,912 | 35,352 | 38,890 | 42,741 | — |
| 有利子負債 | 百万円 | 9,396 | 9,987 | 11,538 | 10,396 | 8,352 | 6,883 | — |
| ネット・デット | 百万円 | 2,663 | 1,968 | 1,983 | -3,311 | -7,705 | -11,473 | — |
| 投下資本 ^{*1} | 百万円 | 50,484 | 56,484 | 63,156 | 61,663 | 62,714 | 63,148 | — |
| 運転資本 ^{*2} | 百万円 | 23,632 | 26,161 | 27,868 | 26,260 | 24,000 | 22,937 | — |

*1 有利子負債(gross)と株主資本の合計

*2 売上債権+棚卸資産-仕入債務

4. ファクトシート 3/4

| 財務指標等 | | 2018/3期 | 2019/3期 | 2020/3期 | 2021/3期 | 2022/3期 | 2023/3期 | 2024/3期 |
|-------------------------------|----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | FY2017 | FY2018 | FY2019 | FY2020 | FY2021 | FY2022 | FY2023 |
| | | 通期 | 通期 | 通期 | 通期 | 通期 | 通期 | 通期 |
| | | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 予想 |
| 期末発行済株式数(自己株式含む) | 千株 | 90,419 | 90,419 | 85,419 | 85,419 | 85,419 | 82,919 | — |
| 期末自己株式数 ^{*1*4} | 千株 | 10,005 | 10,005 | 5,165 | 5,050 | 5,500 | 4,999 | — |
| 期中平均株式数(自己株式除く) | 千株 | 75,914 | 80,414 | 80,251 | 80,322 | 80,367 | 78,116 | — |
| EPS(1株当たり当期純利益) ^{*2} | 円 | 98.51 | 96.05 | 96.55 | 24.91 | 93.13 | 88.22 | 89.13 |
| BPS(1株当たり純資産) | 円 | 510.81 | 578.01 | 640.54 | 638.36 | 682.79 | 721.20 | — |
| DPS(1株当たり配当金) | 円 | 28.75 | 29.00 | 29.00 | 49.00 | 38.00 | 38.00 | 38.00 |
| Payout Ratio(配当性向) | % | 29.2 | 30.2 | 30.0 | 196.7 | 40.8 | 43.1 | 42.6 |
| ROE(自己資本当期純利益率) | % | 24.2 | 17.6 | 15.8 | 3.9 | 14.1 | 12.4 | — |
| ROA(総資産経常利益率) | % | 21.2 | 16.8 | 14.6 | 14.2 | 13.7 | 14.8 | — |
| ROIC ^{*3} (投下資本利益率) | % | 14.7 | 12.9 | 11.5 | 11.7 | 11.0 | 11.9 | — |
| 自己資本比率 | % | 67.4 | 68.6 | 68.5 | 70.3 | 74.5 | 75.3 | — |
| 売上債権回転期間 | 日 | 100.7 | 98.3 | 91.5 | 95.8 | 90.7 | 90.5 | — |
| 棚卸資産回転期間 | 日 | 276.9 | 316.0 | 285.1 | 275.7 | 248.6 | 233.8 | — |
| 仕入債務回転期間 | 日 | 47.7 | 55.3 | 58.0 | 56.1 | 49.7 | 56.1 | — |
| Cash Conversion Cycle | 日 | 329.8 | 358.9 | 318.6 | 315.4 | 289.7 | 268.2 | — |
| 連結従業員数 | 人 | 906 | 932 | 1,074 | 1,167 | 1,205 | 1,166 | — |

*1 役員報酬BIP信託が保有する当社株式及び信託型従業員持株インセンティブ・プラン（E-Ship）に関して信託が保有する当社株式は自己株式に含まれる。（E-Shipは2021/7/29に終了）

*2 分割考慮後のEPS。2018/1に1:2の株式分割が行われています。これを踏まえ、2018/3期のEPSは、前期の期首で株式分割が行われたと仮定して算出しています

3 分母の利益は税引後営業利益。税引後営業利益 = 営業利益(1-実効税率(30.62%))

*4 自己株式の消却：2019/5 500万株、2022/7 250万株

4. ファクトシート 4/4

| 品目別売上高 | | 2018/3期 | 2019/3期 | 2020/3期 | 2021/3期 | 2022/3期*6 | 2023/3期*6 | 2024/3期 |
|------------------|-----|---------|---------|---------|---------|-----------|-----------|---------|
| | | FY2017 | FY2018 | FY2019 | FY2020 | FY2021 | FY2022 | FY2023 |
| | | 通期 | 通期 | 通期 | 通期 | 通期 | 通期 | 通期 |
| | | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 予想 |
| PM関連*5 | 百万円 | 6,463 | 5,169 | 5,682 | 5,996 | 5,899 | 4,979 | 5,011 |
| ICD関連*5 | 百万円 | 584 | 496 | 5,960 | 7,001 | 6,747 | 7,049 | 7,057 |
| その他 | 百万円 | 200 | 196 | 223 | 250 | 330 | 374 | 361 |
| リズムデバイス 計 | 百万円 | 7,247 | 5,862 | 11,866 | 13,248 | 12,977 | 12,403 | 12,431 |
| (リズムデバイス 前年比) | % | 9.5 | -19.1 | 102.4 | 11.6 | -2.0 | -4.4 | 0.2 |
| EPカテーテル | 百万円 | 15,354 | 17,028 | 17,915 | 17,314 | 18,412 | 19,654 | 20,493 |
| ABLカテーテル | 百万円 | 1,161 | 1,369 | 1,421 | 1,047 | 1,232 | 1,011 | 976 |
| その他 | 百万円 | 3,848 | 4,662 | 5,358 | 5,501 | 5,455 | 5,626 | 1,944 |
| EP/アブレーション 計 | 百万円 | 20,364 | 23,060 | 24,696 | 23,863 | 25,099 | 26,292 | 23,414 |
| (EP/アブレーション 前年比) | % | 16.2 | 13.2 | 7.1 | -3.4 | 5.2 | 4.8 | -10.9 |
| 人工弁 | 百万円 | 1,742 | 1,448 | 259 | - | - | - | - |
| 人工血管関連 | 百万円 | 8,482 | 9,133 | 8,879 | 9,039 | 9,368 | 10,353 | 10,681 |
| 脳血管関連*4 | 百万円 | 0 | - | - | - | 12 | 230 | 622 |
| 血液浄化関連*1 | 百万円 | 1,131 | 1,070 | 994 | - | - | - | - |
| その他*2*4 | 百万円 | 106 | 77 | 32 | 929 | 748 | 423 | 421 |
| 心血管関連*3 (旧外科関連)計 | 百万円 | 11,464 | 11,730 | 10,166 | 9,969 | 10,129 | 11,006 | 11,724 |
| (心血管関連 前年比) | % | 26.0 | 2.3 | -13.3 | -1.9 | 1.6 | 8.7 | 6.5 |
| 消化器関連 | 百万円 | 28 | 107 | 132 | 247 | 453 | 654 | 1,125 |
| その他*2 (旧PI関連) | 百万円 | 3,193 | 4,765 | 4,900 | 3,957 | 2,808 | 1,394 | 111 |
| 消化器*2 (旧消化器/PI)計 | 百万円 | 3,221 | 4,872 | 5,032 | 4,204 | 3,261 | 2,048 | 1,236 |
| (消化器 前年比) | % | 15.7 | 51.3 | 3.3 | -16.5 | -22.4 | -37.2 | -39.6 |
| 連結売上高 | 百万円 | 42,298 | 45,525 | 51,761 | 51,286 | 51,469 | 51,750 | 48,807 |
| (連結売上高 前年比) | % | 13.8 | 7.6 | 13.7 | -0.9 | 0.4 | 0.5 | -5.7 |

*1 2021/3期より、「その他」に含めて表示。

*2 2023/3期より、「インターベンション」から「消化器/PI」に改称。さらに、2024/3期より、「消化器/PI」から「消化器」に改称。サブカテゴリの「PI関連」は「その他」に改称。「PI関連」に含まれていた構造的な心疾患は「PI関連」から心血管関連の「その他」に移動(組み換え)

*3 2024/3期より、「外科関連」から「心血管関連」に改称。

*4 2024/3期より、「心血管関連」の「その他」に入っていた脳血管関連を外に出し、「脳血管関連」として独立(組み換え)

*5 2024/3期より、「ICD関連」に入っていた左室ペースンクリードを「PM関連」に移動(組み換え)

*6 *2*4*5の組み換えを2022/3期と2023/3期にも遡及して適用

1. 日本ライフラインとは
2. ビジネスモデル
3. 業績ハイライト
4. 中期経営計画
5. 資本政策・株主還元
6. サステナビリティ
7. ファクトシート
8. 補足資料

補足資料 目次

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 投資家様からのFAQ 2. 専門用語等の補足説明 3. 疾患及び治療の説明 <ol style="list-style-type: none"> 1. 心臓のしくみ 2. 不整脈とは 3. 不整脈の治療－リズムデバイス 4. 不整脈の治療－EP/アブレーション 5. 心房細動とは 6. 心房細動のアブレーション治療 7. アブレーションの手技①心房中隔穿刺 8. アブレーションの手技②心腔内除細動 9. アブレーションの手技③食道温モニタリング 10. 大動脈瘤とは 11. 大動脈瘤の治療－人工血管 12. 大動脈瘤の治療－ステントグラフト 13. 大動脈瘤の治療－オープンステントグラフト | <ol style="list-style-type: none"> 4. 開発生産拠点 5. 会社概要 |
|---|--|

| | |
|---|---|
| <p>Q：独自の強みは何か？</p> | <p>A：海外から最先端の医療機器をタイムリーに導入できる「商社」と、高機能カテーテルなどの独自技術を生かし製品開発を行う「メーカー」の両輪で、相互補完的にプロダクト・ポートフォリオを強化していけるビジネスモデルが強みです。これを支える事業基盤として、全国をカバーする営業拠点を有しているほか、自社で薬事申請・安全管理・品質保証の機能を整備しています。</p> |
| <p>Q：商社とメーカーのすみわけはどう考えているのか？自社品と他社品で競合しないのか？</p> | <p>A：仕入商品は海外スタートアップの「最先端で新規性が高い」ものが多く、自社製品は当社独自の技術を活かした、日本の医師の繊細なニーズに応える「ニッチでハイクオリティ」なものが多いです。したがって、基本的に競合しません。当社は、最新最適な医療機器があれば、自社品・他社品の区別なく素早く医療現場に導入することが、当社ならではの医療に対する貢献であると考えており、ビジネスの方針としています。</p> |
| <p>Q：自社製品比率の中長期の目標値はあるか？</p> | <p>A：中長期では55～65%程度を目指します。（23/3期時点で54.9%）ただし、「商社とメーカーの両方の事業機会を追究すること」を基本方針としているので、常に比率が右肩上がりになることを目指すわけではありません。中期経営計画の期間では、自社製品の売上が伸長する一方、脳血管領域(仕入品)の拡大が売上高に大きく寄与するため、自社製品比率は漸減していく見通しです。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>Q：海外販売戦略はどうなっているのか？</p> | <p>A：現状、韓国・台湾・北米・欧州などへの販売実績がありますが、海外売上高比率は未だ1%程度です。当社の自社製品は国内市場向けに開発されたハイスペックなものが多く、海外展開においてコストがネックとなります（海外の方が国内より販売価格が低いケースが多い）。海外マーケットに即した廉価版の製品開発や製造コストの低減などを通じて、引き続き重要課題として取り組んでいきます。</p> |
| <p>Q：心腔内除細動カテーテル(BeeAT)はなぜ長い期間オンリーワンたりえたのか？なぜ海外展開しないのか？</p> | <p>A：「アブレーション手術中に心房細動が発生した場合、除細動で止める」手技が、日本特有であることが要因です。欧米ではこれがスタンダードではないため、海外で除細動機能付きカテーテルの需要がほとんどありません。また、国内のEPカテーテルの競合先はほとんどが巨大な外資系企業であり、これらの企業が日本市場だけで通用する製品を自社開発するインセンティブがないことから、2012年の発売以来、国内オンリーワンとなっています。</p> |
| <p>Q：M&Aに関する基本的な方針は？</p> | <p>A：M&Aは成長戦略の選択肢のひとつと考えており、製品開発に活かせるユニークな技術を有する会社や、販売面において強いシナジーを発揮できる製品を持っている会社などに対して、M&Aの機会があれば、積極的に検討します。</p> |

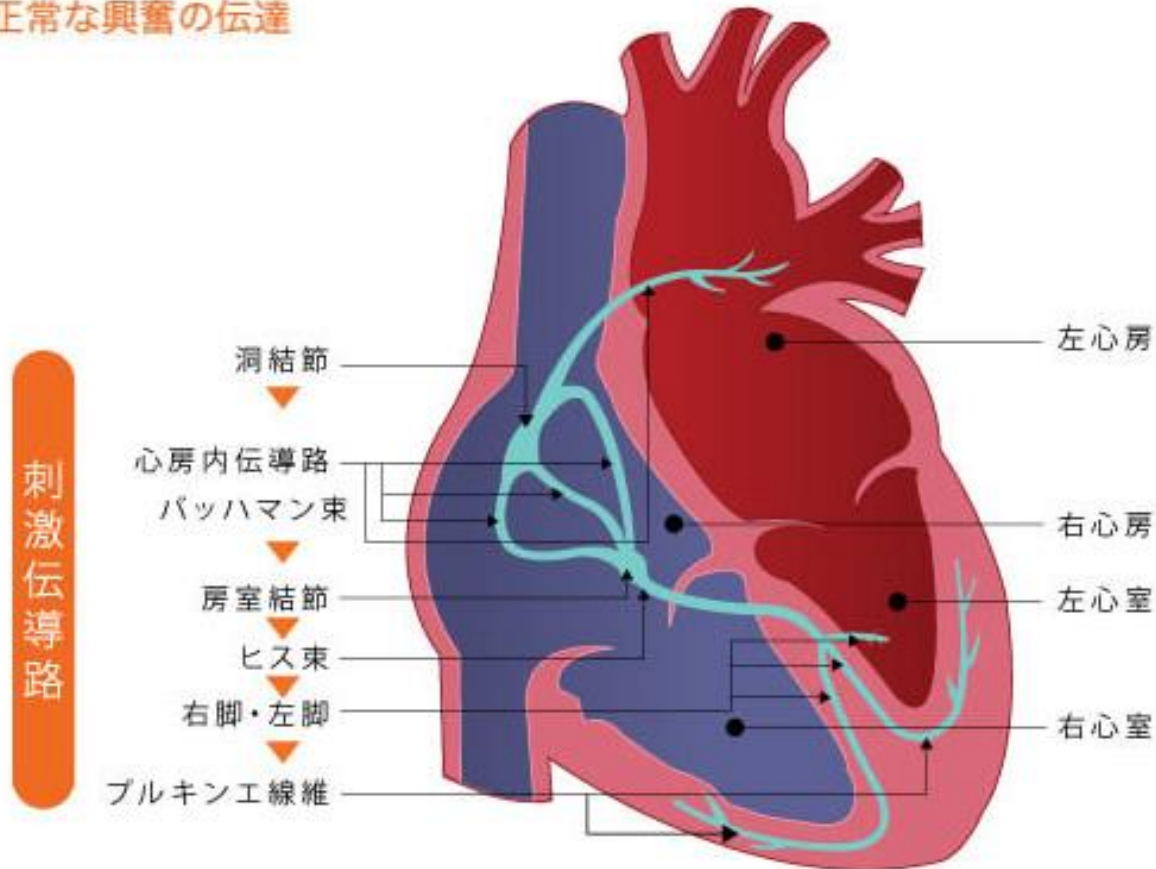
| | |
|-------------------------------------|---|
| <p>Q：棚卸資産回転率が低いのはなぜか？</p> | <p>A：医療機器の販売は、自社在庫を病院に預け、手術使用時に売上を認識する預託販売が一般的です。緊急症例にも備え、各病院に幅広く製品の在庫を置くことが必要です。また、当社の取扱い品は患者様の生命に関わる製品であるため、非常時に備え常時一定数の在庫を確保することが供給責任を果たすうえで必要です。結果として、他業種に比べて在庫負担が重く、棚卸資産回転率はやや低い傾向にあります。</p> |
| <p>Q：為替の変動が業績にどの程度影響するか？</p> | <p>A：当社の商品仕入契約は約70%が円建てであり、全体の損益上は大きな影響はありません。また、当社は移動平均法で在庫単価を算定しているため、為替の変動による仕入価格の上昇や製品部材の輸入コストが上昇があっても、その影響は長期間にわたって平準化されます。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>保険償還価格 (National Health Insurance Reimbursement Price)</p> | <p>日本の公的医療保険制度において医療機関が診療報酬として保険機関に請求できる代金のうち、医療材料として請求できる材料(特定保険医療材料)の請求価格。当社の取扱い製品はほとんどが、クラスⅢ・Ⅳ「高度管理医療機器」に分類され、保険償還の対象となっています。一般に、販売代理店から医療機関への医療機器の納入価格は、保険償還価格に一定の掛率を乗じた額であり、保険償還価格と納入価格の差額が医療機関の利益となります。医療機器については、2年に1回の頻度で国が市場価格の調査を行い、それに基づき改定します。(市場競争により、市場価格が下がれば、保険償還価格も下落改定となることが多い。)</p> |
| <p>心房細動 (Atrial Fibrillation)</p> | <p>心房と呼ばれる心臓内の部屋が小刻みに震えてけいれんする心臓の病気。心房細動は心臓内に血栓(血の固まり)が発生する要因とされ、致死性の心原性脳梗塞を発症するリスクを高めます。心房細動のアブレーション治療の症例数(AF症例数)は当社の主力事業のEP/アブレーションの業績と相関性が非常に高いです。当社は、AF症例数を重要KPIとしてモニターし、毎年独自の症例数調査を実施しています。年間症例数は2022年現在で約9万例と推測しています。一方、国内の潜在的な患者母数は大きく、約180万人とも言われます。</p> |
| <p>アブレーション (Ablation)</p> | <p>不整脈の根治を目指す治療法のひとつ。心臓内で不整脈の原因となっている異常な電気回路に対して、心筋焼灼(アブレーション)用のカテーテルを用いて焼灼または冷凍凝固を行うことで、正常な状態に戻します。アブレーション治療の対象として最も多いのが心房細動であり、全体の約8割を占めます。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>自社製品比率 (In-house sales ratio)</p> | <p>売上高に占める自社製品の比率。自社製品の粗利率は約60～70%。(仕入商品は約30～40%) 自社製品比率の上昇は、製品ミックスの良化につながるため、売上総利益率の上昇要因となります。</p> |
| <p>オンリーワン製品/商品 (One-of-a-kind products)</p> | <p>当社が独占的に販売している製品/商品です。多くの場合、保険償還で単独の価格区分を獲得していません。自社製品では、心腔内除細動カテーテル「BeeAT」やオープンスtentグラフト「Frozenix」、仕入商品では、BSC社製の完全皮下植込み型除細動器(S-ICD)「EMBLEM™ MRI S-ICD System」が該当します。</p> |
| <p>滅菌期限 (Sterilization Period)</p> | <p>医療機器メーカーはQMS（品質管理基準）に関する省令に基づき、厳密な工程を順守することで、医療機器の滅菌性を保証しています。滅菌には有効期限があり、滅菌期限が過ぎた製品は臨床使用することができません。（廃棄処理）</p> |

心臓は、全身に血液を送り出すポンプのような役割をしており、右心房にある洞結節で発生した電気刺激が心筋に伝わり拍動することで、血液を送り出します

正常な興奮の伝達



- 人間の活動に必要な酸素や栄養を運搬するのは血液であり、心臓はその血液を身体のすみずみまで送り出すポンプの役割をしている
- 正常な成人の心臓は1分間に約60～100回収縮して血液を送り出しおり、収縮は心臓の右心房上部にある洞結節で発生した電氣的興奮が、心房内伝導路、房室結節、ヒス束、右脚・左脚、プルキンエ線維を伝わり心筋まで伝達することで起こる
- 心房と心室は一定の間隔をおいて順番に収縮して、効率的に血液を全身に送り出す

不整脈とは、心臓の電気刺激が正常に伝わらないことにより、ポンプ機能が正常に働かない状態であり、2種類の症状があります

成人の正常脈拍は60～100回/分

- 40回/分未満(遅)・・・**徐**脈性不整脈
- 100回/分以上(早)・・・**頻**脈性不整脈

原因は・・・

- 心筋梗塞や心筋症といった心臓病
- 高血圧や高脂血症
- 精神的なストレス
- 飲酒・喫煙
- 加齢 etc..

症状は・・・

動悸



息切れ



胸部不快感



倦怠感



目眩



失神



体内にペースメーカー、ICD、CRT-Dを植込み、不整脈が発生した際に、電気刺激（ペースメーカーの機能）や電気ショック（ICD、CRT-Dの機能）を与えます

徐脈性不整脈 (遅い)
Brady (ブラディ)

- 洞不全症候群 (SSS)
- 房室ブロック (AVB)
- 徐脈性心房細動 (AF) etc..



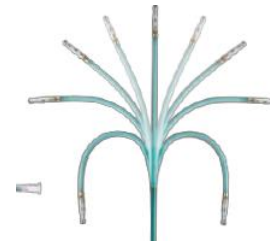
ペースメーカー

頻脈性不整脈 (早い)
Tachy (タキ)

- 心房細動 (AF)
- 心房粗動 (AFL)
- 上室性頻拍 (SVT)
- 心室期外収縮 (VPC) etc..



アブレーション



致死性不整脈

- 心室頻拍 (VT)
- 心室細動 (VF)

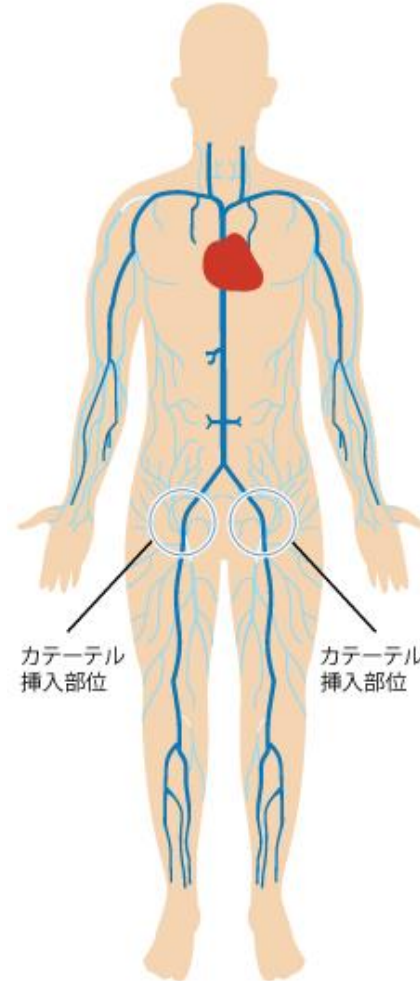
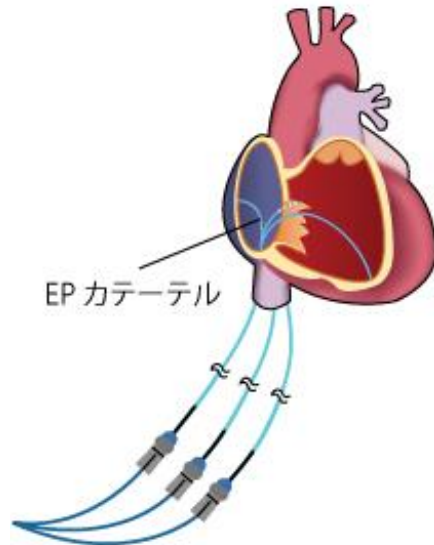


T-ICD

検査に用いるEP（電気生理）カテーテルと、治療用のアブレーションカテーテルがあります

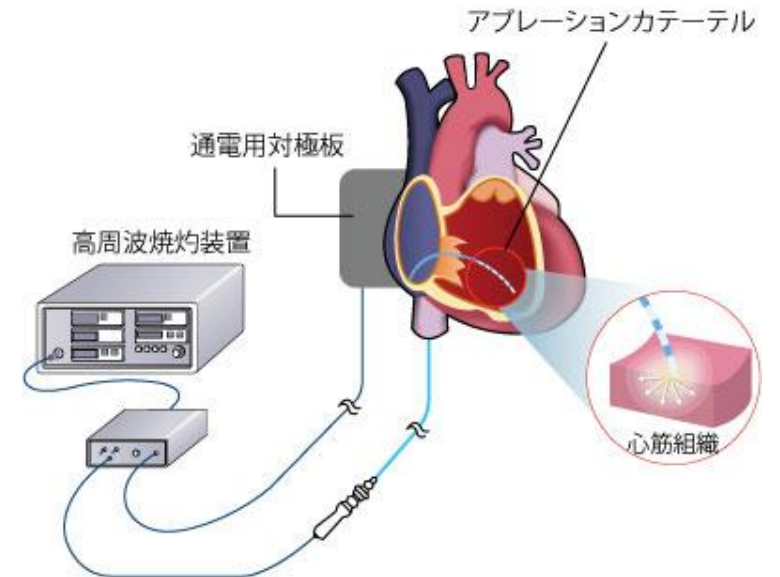
EPカテーテル (検査用)

電気生理カテーテルを血管の中を通して心臓内に挿入して、外部電気刺激装置を使って不整脈の検査をします。



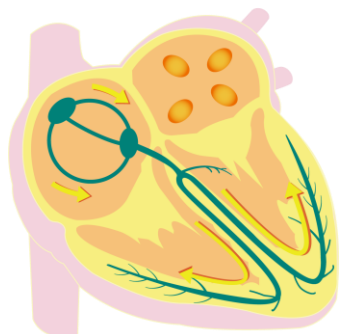
アブレーションカテーテル (治療用)

脈が異常に早くなる頻脈の原因となる心臓内の異常な電気刺激経路を、高周波により焼き切り治療します。



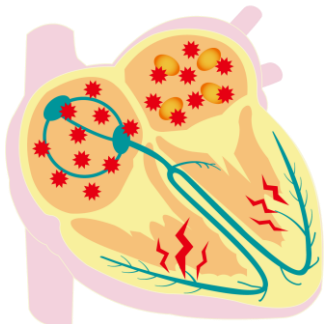
心房細動（AF）とは、心房内で不規則に電気刺激が多発し、心房が痙攣したような状態になる不整脈です。血液が滞留しがちになるため、血栓ができやすく、脳梗塞などを引き起こす危険性があります。

正常



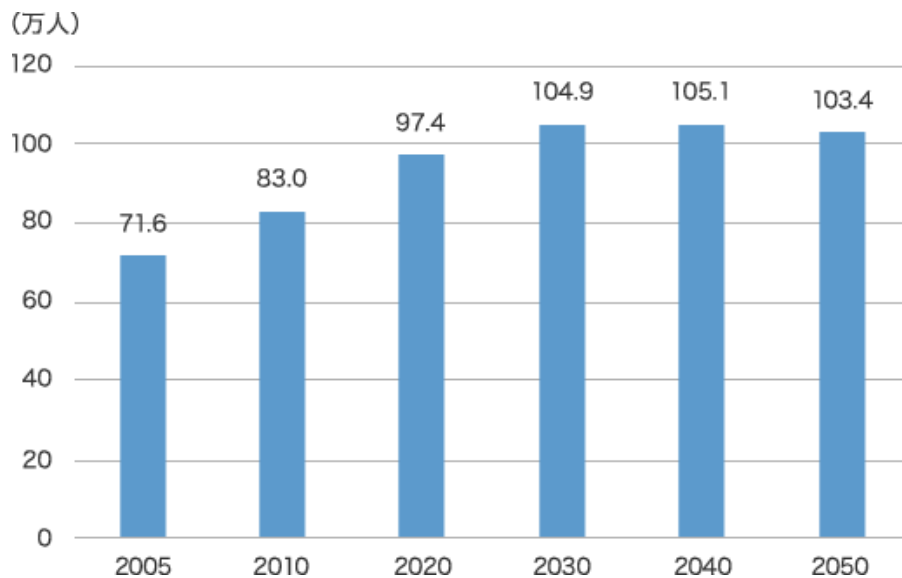
規則的な動き

心房細動



不規則な動き

日本での心房細動有病率の変化予測



Inoue et al. Int J Cardiol 2009; 137: 102-107より作図

2030年には100万人を超えると予測される

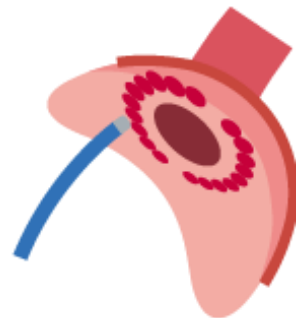
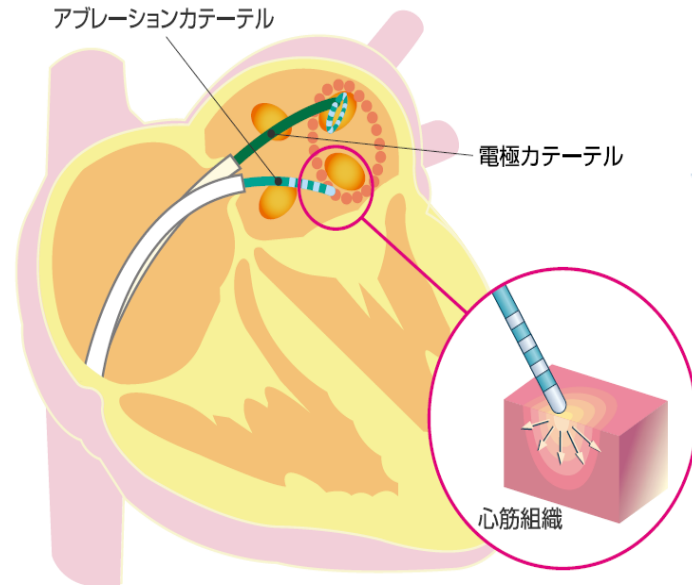
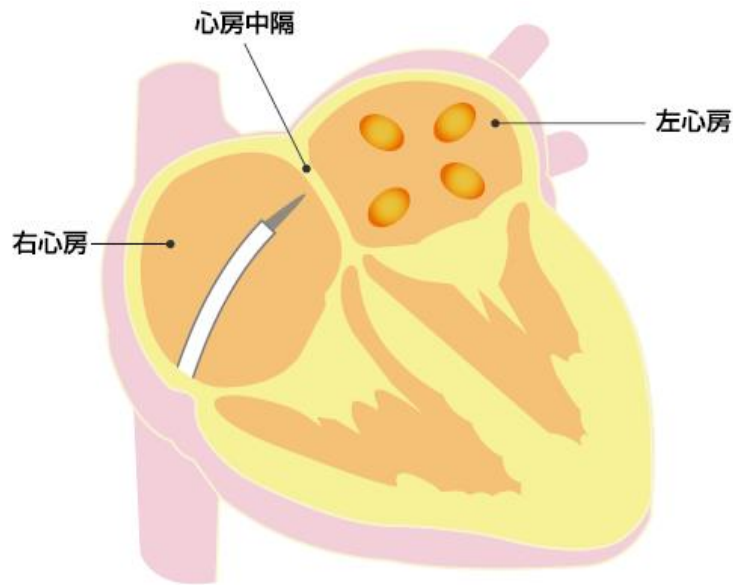
- 心房と呼ばれる心臓内の部屋が小刻みに痙攣し、正常に機能しなくなる不整脈の一種
- 心房細動が起こると、血液の滞留により、血栓が形成されやすくなる。この血栓が血流に乗り他の臓器の血管を塞いでしまうことにより、脳梗塞等の動脈塞栓症を引き起こす危険性がある
- 心房細動の治療には、外科手術による治療、薬剤による治療、そしてカテーテルを用いた経皮的な治療であるアブレーション治療(心筋焼灼術)がある

心房細動の原因となる肺静脈（左心房）の周りをアブレーションカテーテルで焼き切り、不整脈を治します

心房細動の原因となる電気刺激は主に肺静脈から発生

肺静脈のまわりを焼灼することで、電気刺激の伝達を遮断

日本では大きく分けると2つの治療が受けられる



カテーテルアブレーション

カテーテルの先端を使って心筋を1箇所ずつ点状に加熱し治療する



バルーンアブレーション

先端に風船状に膨らむ器具をつけたカテーテルを用いて、膨らませた風船を心筋に密着させ治療する

左心房のアブレーション治療をするため、心房中隔にカテーテルを通すための穴を開けます。従来の金属製の針（機械針）でなく、高周波を用いる方法は手技の安全性を高めます

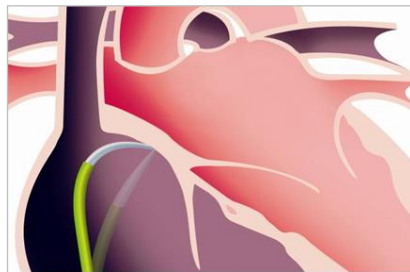
【機械針を用いた手技】



押し過ぎによる
誤穿刺のリスク



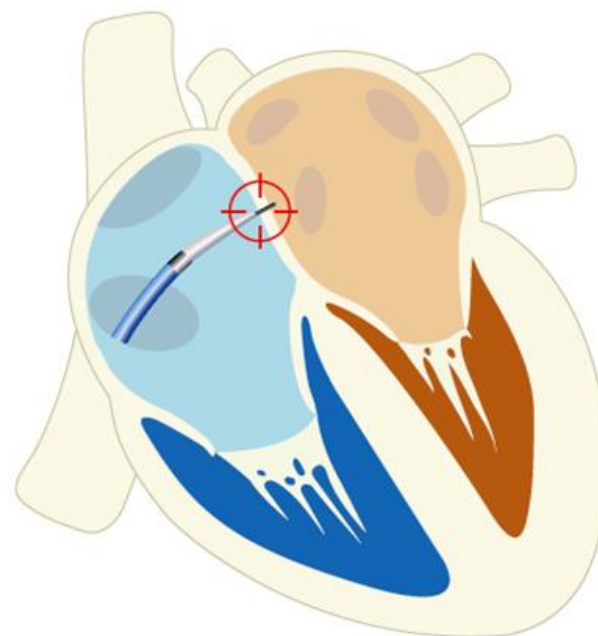
困難な症例①
弾力性のある中隔



困難な症例②
厚い中隔

【高周波を用いた手技】

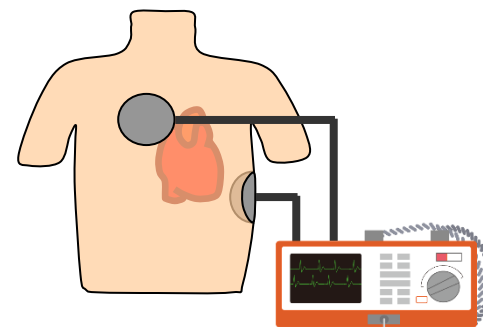
押す力を必要とせず
誤穿刺のリスクが少ない



アブレーション治療時に発生する心房細動に対して、心腔内で除細動を行います
体表面式に比べ低いエネルギーで除細動ができ、手技の低侵襲化が可能になります

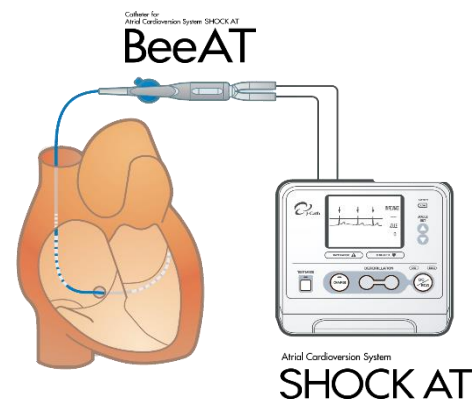
体外式除細動

心臓を挟むように除細動パッチ(±極)貼り、体外式除細動器から直流電流を流す



心腔内除細動

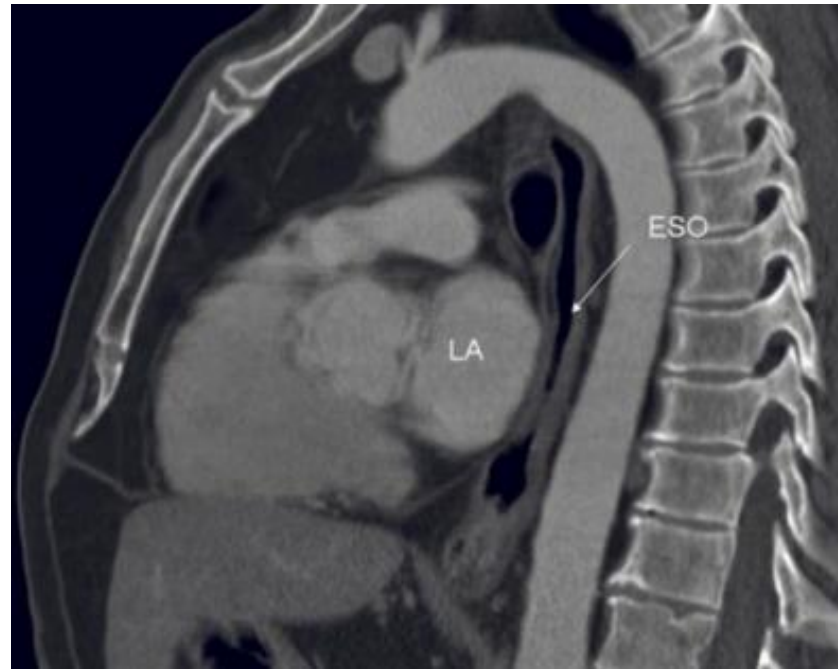
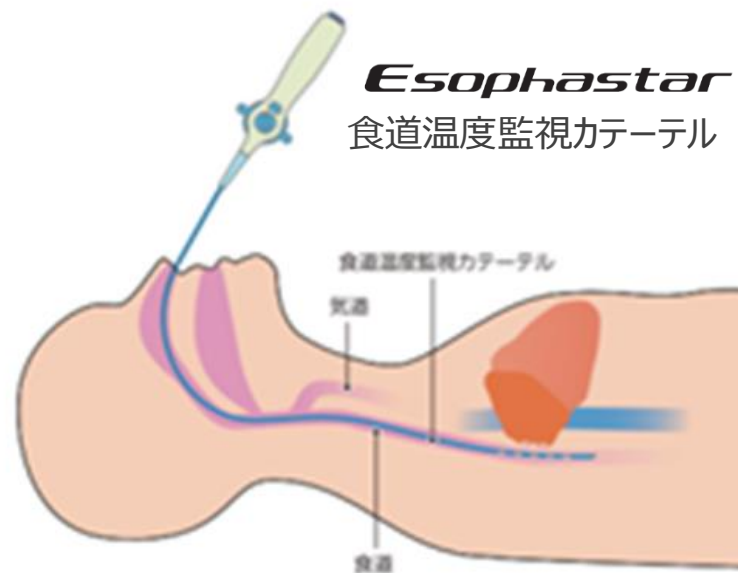
心臓(左心房)を挟むように留置されたカテーテルの電極から直流電流を流す



3-9. アブレーションの手技③ 食道温モニタリング

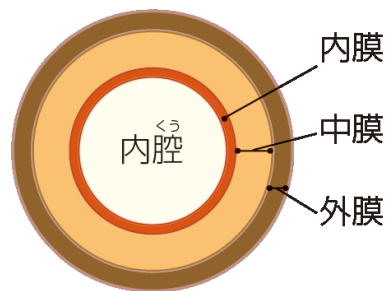
心房細動のアブレーション治療で対象となる左心房は、食道に近く、過度の焼灼により食道を損傷するリスクがあります。食道の温度を監視することで、アブレーション治療の安全性を高めます。

鼻からカテーテルを食道へ挿入
食道内の温度上昇を監視

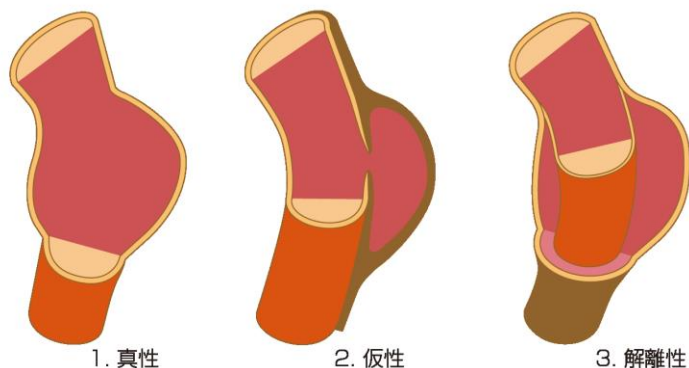


- 食道障害を起こさないように、食道温度をモニターしながらアブレーションを実施
- 食道温度が上昇した場合は、焼灼を中断する

心臓から全身に送り出される血液が通る、最も太い血管である大動脈が、動脈硬化などによりもろくなり、高い圧力によって膨らみ瘤（こぶ）ができる疾患を大動脈瘤といいます



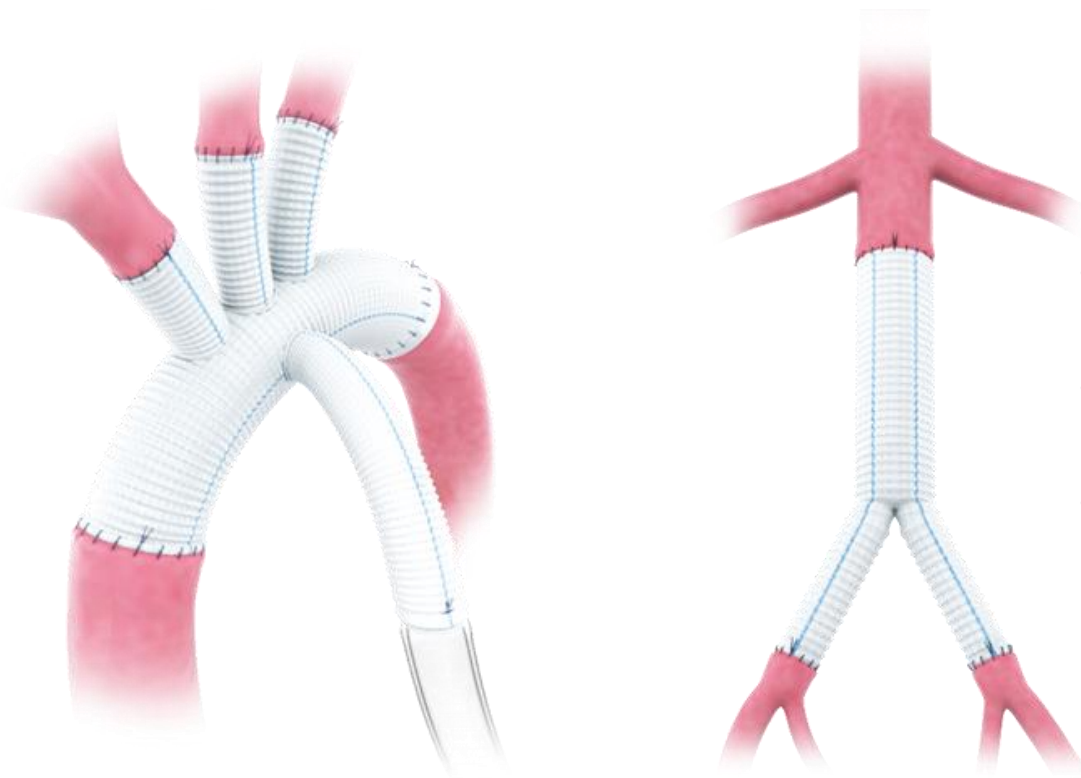
血管の壁のイメージ



【大動脈瘤の主な種類】

1. 真性…血管の壁の3層構造が保たれたまま瘤状の膨らみができる
2. 仮性…血管の壁の一部が内膜、中膜、外膜の3層とも欠け、そこから漏れた血液が周りの組織を圧迫して瘤状の膨らみができる
3. 解離性…内膜に亀裂ができ、内膜と中膜との間に血液が入り込み、2枚の膜の間が剥がされ、剥がされた部分に血液が入り込み、裂け目が広がる

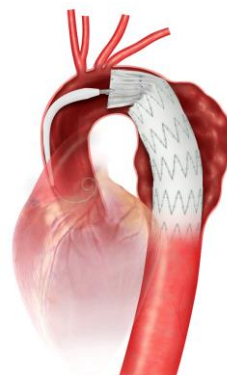
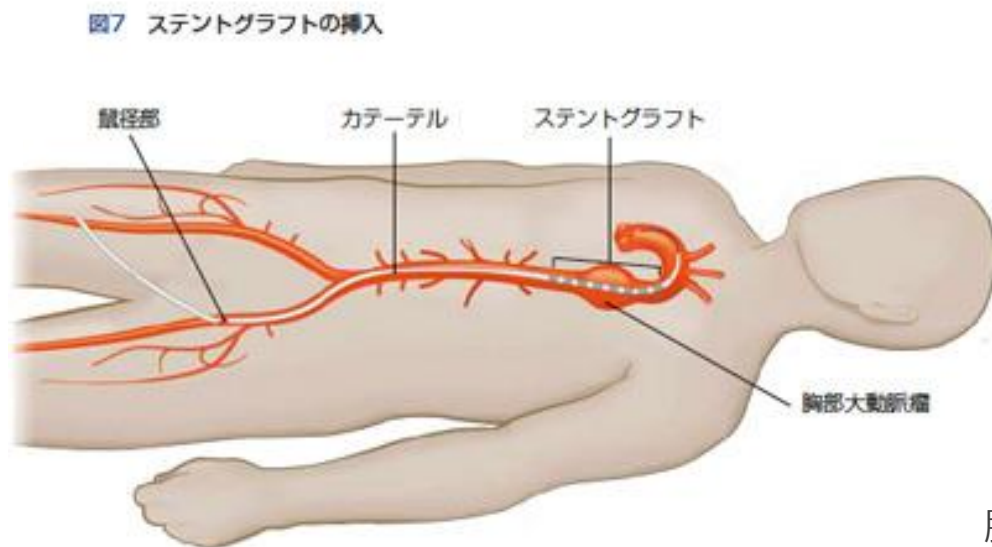
大動脈にできた瘤の部分を開胸手術で切除し、人工血管に置換します



人工血管に置換したイメージ

- 全身麻酔下で開胸もしくは開腹手術により実施
- 瘤の形状にかかわらず手術が可能
- 高い有効性を示しており、現在は治療における第一の選択肢

足の付け根の血管から、カテーテルを用いてステントグラフトを治療部位へ進め、ステントの拡張力により、血管の内側から胸部や腹部の瘤をカバーします



TEVAR

胸部大動脈瘤ステントグラフト治療



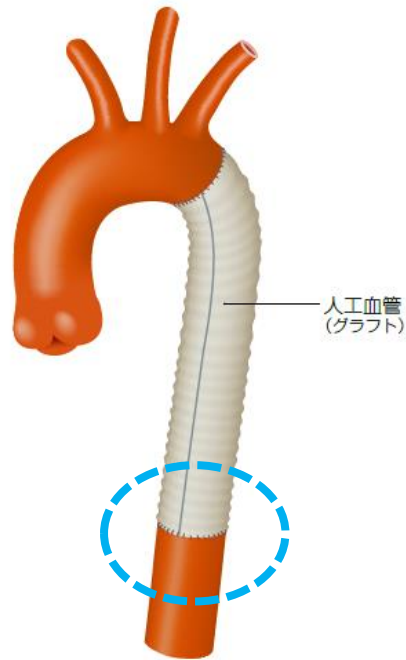
EVAR

腹部大動脈ステントグラフト治療

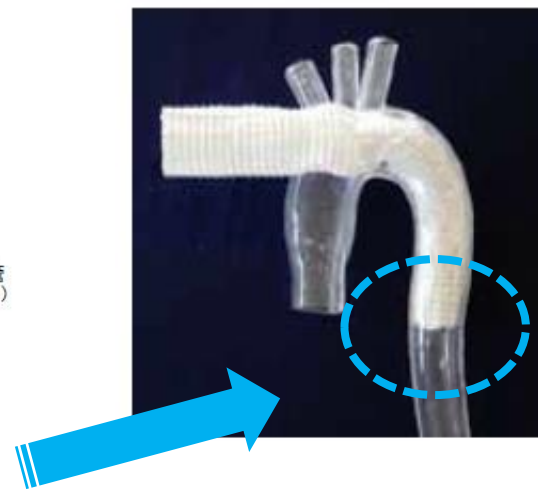
- 開胸・開腹による手術のリスクが高く、治療が出来なかった患者様に対して治療が可能に
- カテーテルを用いることで、極めて低侵襲な治療が可能に

オープンステントグラフトは片方の縫合が不要であり、手術が1回で済むことから、低侵襲な治療が可能です。

<人工血管の場合>



<オープンステントグラフトの場合>



末梢側はステントの拡張力で固定 ⇒縫合が不要

左開胸が不要であり、手術が1回で済む

✓ 国内4拠点、海外1拠点の体制でメーカー機能を支える

研究開発

研究開発統括部 (埼玉県戸田市)

Medical Technology Park North Square



2018/4~

中核工場

戸田ファクトリー (埼玉県戸田市)

Medical Technology Park South Square



2012/1~

量産・滅菌工場

小山ファクトリー (栃木県小山市)



2014/10~

血管製品の開発・生産

市原ファクトリー (千葉県市原市)



2011/1~

海外工場

マレーシア工場 (マレーシアペナン州)

JLL Malaysia Sdn.Bhd.



2020/6~

| | |
|-------|---|
| 商号 | 日本ライフライン株式会社 |
| 代表者 | 代表取締役社長 鈴木啓介 |
| 本社 | 東京都品川区東品川2-2-20 天王洲オーシャンスクエア |
| 設立 | 1981年2月6日 |
| 上場市場 | 東京証券取引所 プライム市場 |
| 証券コード | 7575 |
| 事業内容 | 医療用機器の製造、販売、輸出および輸入販売 |
| 資本金 | 2,115百万円 |
| 決算期 | 3月31日 |
| 従業員数 | 連結1,166名/単体962名（2023年3月31日 現在） |
| 事業所 | 営業拠点48ヶ所、羽田ロジスティックスセンター、関西ロジスティックスセンター、研究開発統括部、戸田ファクトリー、小山ファクトリー、市原ファクトリー、天王洲ACCADEMIA（研修センター）（2023年3月31日 現在） |
| 連結子会社 | JLL MALAYSIA SDN. BHD. |

ご注意事項

本資料の記載内容のうち、歴史的事実でない事項は、当社の将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。特に、商品や製品の導入に係る、治験および薬事承認に係る事項、また発売時期につきましては、過去の経験や入手可能な情報から得られた当社の予測であります。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本資料記載の見通しと異なる可能性がありますので、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部

TEL:03-6711-5214

E-Mail:ir@jll.co.jp

URL:<https://www.jll.co.jp>